

「知の市場」公開講座 2018年度後期受講者募集中



知の市場は、自立的で解放的な協力関係を形成しながら人々が自己研鑽と自己実現のために立場を越えて自ら活動する場 (Voluntary Open Network Multiversity) です。

そしてプロ人材の育成と高度な教養教育の接合及び社会人教育と学校教育の連結という二つの結合を促進する挑戦でもあります。

知の市場は2004年に開講以来3万名以上の方が受講しており、2018年度は全国18拠点で45科目を開講します。

詳しくは[知の市場ホームページ](#)をご覧ください。

開講科目	2018年度 機関別開講科目一覧
対象	開講する科目に関心のある社会人(学生、大学院生を含み、年齢、性別を問わない)で、継続して授業に出席できる方
応募方法	①科目の申し込みに先駆け、知の市場ホームページより 受講者登録 をしてください。 ②知の市場と開講機関のホームページにある応募・受講条件を確認の上、希望する科目の開講機関のホームページより応募してください。
受講料	原則無料 ただし一部の科目においては資料代など実費程度を徴収する場合があります。
応募期間	7月1日(日)より開始します。 各開講機関により応募期間は異なるので、詳細は各開講機関のホームページ等で確認してください。

2018年度 前期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
愛知-名古屋立大学（1）最新医学 知の市場 開講機関：名古屋立大学最新医学講座オープンカレッジ 会場：名古屋立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
41	最新医学講座オープンカレッジ 第1期講座・第2期講座	名古屋立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
北アルプス・蝶ヶ岳 知の市場 開講機関：名古屋立大学大塚が岳ボランティア診療班 会場：名古屋立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所					
41	雲上セミナー	新 名古屋立大学大塚が岳ボランティア診療班		夏季	
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所(地下鉄早稲田駅・若松河田駅)					
PT211c	感染症総合管理1c	国立感染症研究所	感染症との闘いー現在問題となっている感染症ー	火	18:30-20:30
東京・幡ヶ谷 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構 会場：製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅)					
SE125	化学物質総合管理特論	製品評価技術基盤機構	化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識 (仮)	火	18:30-20:30
SE232	バイオ安全特論	製品評価技術基盤機構	微生物資源の活用とバイオ安全の基礎知識 (仮)	木	18:30-20:30
大阪・住之江 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構 会場：製品評価技術基盤機構製品安全センター					
SK441	製品総合管理特論	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識 (仮)	金	18:00-20:00
東京・茗荷谷 知の市場 開講機関：化学工学会SCE・Net 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
VT465b	原子力・放射能基礎論	化学工学会SCE・Net	原子力と放射線の今、そしてこれから	土集中	13:00-17:10
大阪・関西大学梅田キャンパス 知の市場 開講機関：関西大学 会場：関西大学梅田キャンパス(阪急梅田駅・JR大阪駅)					
LK473	社会安全学2	新 関西大学	企業・組織の安全・安心対策	木	18:15-19:45
茨城・つくば 知の市場 開講機関：農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門					
43	農研NIASサイエンスカフェ	新 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門		通年	
東京・放送大学文京学習センター 知の市場 開講機関：東京知の市場・放送大学 (協賛) 会場：放送大学東京文京学習センター(地下鉄茗荷谷駅)					
UT812	プロフェッショナル論	放送大学	楽しく豊かな人生を創造するプロフェッショナルの心得	日集中	14:10-17:15
UT563	オープンとクローズの経営戦略論	新 原田節雄	標準 (Open) と知財 (Closed) を巡る経営戦略を論じ、それに必要な交渉術・会議術・開会術を解説し、実演する	水集中	14:10-17:15
UT726	サウジアラビア学入門	新 山口登	現地経験が語る意外に似ているサウジアラビアの人々と社会	水集中	14:10-17:15
57	規範科学事例研究 1	新 増田優		水集中	14:10-17:15
51	社会技術革新事例研究 1	新 増田優		水集中	14:10-17:15
愛知-名古屋立大学（2）学びなおし 知の市場 開講機関：名古屋立大学大学院医学研究科 会場：名古屋立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
41	名市大医帯・保健学びなおし講座 春季講座 3科目	名古屋立大学大学院医学研究科		火・木	18:30-20:00
41	出張講座 1科目	新 名古屋立大学大学院医学研究科		通年	
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リハビリアカデミー 会場：明治大学リハビリタワー(JR・地下鉄都奈ノ水駅)					
IT443a	安全学入門	明治大学リハビリアカデミー	安全を総合的に、包括的に考える	土集中	13:00-16:10
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
ZY222	動物臨床医学事例研究	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方1	日	9:30-16:50
福島・いわき 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：東洋システム(JR湯本駅)					
BF518	イノベーション論	増田優		通期	
東京・東京駅 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：アットビジネスセンター東京駅(JR東京駅八重洲口・地下鉄八丁堀駅)					
BT519	リチウムイオン二次電池論	東洋システム	リチウムイオン二次電池開発の歴史に見る技術革新の成否の要因	金	18:00-20:00

知の市場ホームページ <http://www.chinoichiba.org/>に、シラバス(講義内容)を掲載していますが、最新版のシラバスは各開講機関ホームページから確認してください。

◆問合せ◆ 各開講機関までお問合わせください。問合せ先は、本リーフレットリンク先もしくは知の市場ホームページからご確認ください。

2018年度 後期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
愛知・名古屋市立大学（1）健康 知の市場 開講機関：名古屋市立大学最新医学講座オーブンカレッジ 会場：名古屋市立大学川邊キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
41	最新医学講座オーブンカレッジ 第3期講座	名古屋市立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所(地下鉄早稲田駅・若松河田駅)					
PT211d	感染症総合管理1d	国立感染症研究所	感染症対策・ワクチンを中心にー	火	18:30-20:30
東京・幡ヶ谷 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構 会場：製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅)					
ST441	製品総合管理特論	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識(仮)	火	18:30-20:30
大阪・千里山 知の市場 開講機関：日本リスクマネージャーネットワーク・関西大学化学生命工学部 会場：関西大学千里山キャンパス(阪急千里線関大駅前)					
JK131b	防疫薬総合管理	日本環境動物昆虫学会	身近な生活・環境害虫防除ー世界をリードする防疫薬と害虫防除技術ー	月	18:15-20:15
JK454	環境基礎論	日本リスクマネージャネットワーク	市民の環境問題入門	火	18:15-20:15
茨城・つくば 知の市場 開講機関：農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門					
43	農研NIASサイエンスカフェ 新	農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門		通年	
東京・放送大学文京学習センター 知の市場 開講機関：東京知の市場・放送大学(協賛) 会場：放送大学東京文京学習センター(地下鉄茗荷谷駅)					
UT116a	実践化学物質総合管理(講習)2	林浩次	SDS作成とGHS分類の実務を学ぶ	水集中	14:10-17:15
UT543b	サステナブル消費論b	新 サステナビリテイ消費者会議	消費者の行動をサステナブルにするためにはどうすべきかをともに考える	水集中	14:10-17:15
57	規範科学事例研究 2	新 増田優		水集中	14:10-17:15
51	社会技術革新事例研究 2	新 増田優		水集中	14:10-17:15
愛知・名古屋市立大学（2）学びなおし 知の市場 開講機関：名古屋市立大学大学院医学研究科 会場：名古屋市立大学川邊キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
41	名市大医療・保健学びなおし講座 秋季講座3科目	名古屋市立大学大学院医学研究科		火・木	18:30-20:00
41	出張講座 1科目	新 名古屋市立大学大学院医学研究科		通年	
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リハビリアカデミー 会場：明治大学リハビリタワー(JR・地下鉄御茶ノ水駅)					
IT443b	製品機械安全特論	明治大学リハビリアカデミー	製品と機械のリスクアセスメントについて考える	土集中	13:00-16:10
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
ZY222	動物臨床医学事例研究	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方1	日集中	9:30-16:50
埼玉・狭山元気プラザ 知の市場 開講機関：アダムジャパン 会場：狭山元気プラザ又はアダムジャパン(西武新宿線狭山市駅からバス)					
YB612a	狭山を学ぶ ものづくり編a	アダムジャパン/狭山市(元気大学)	世界に羽ばたくビヤードのすべ	水	16:30-18:30
福島-いわき 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：東洋システム(JR湯本駅)					
BF518	イノベーション論	増田優		通期	

知の市場ホームページ <http://www.chinoichiba.org/>に、シラバス(講義内容)を掲載していますが、最新版のシラバスは各開講機関ホームページから確認してください。

◆問合せ◆ 各開講機関までお問合せください。問合せ先は、本リーフレットリンク先もしくは知の市場ホームページからご確認ください。

Free Market of · by · for Wisdom

Voluntary Open Network Multiversity

知の市場

— 理念と運営 —

人間は多様な危機に曝されつつ多様な機会に巡り合う中で技術革新、制度改革、人材改新を通して社会変革を成し遂げながら生活をしてきた。しかし日本も世界も未だ多くの課題を抱えている。こうした中において自らを活かしつつ社会と世界において活動を展開していく幅広い基盤を固めるためには、広範な教養を高めていくことが必須である。

社会の幅広い領域において諸々の機関が人々の多様な要請に応えて学習の機会を提供している。また、多彩な背景を持つ人々がそれぞれの立場で役割を担いつつ勉学に励んでいる。こうした力を糾合して新たな総合的かつ実践的な学習の機会を創成するべく「知の市場 (FMW : Free Market of · by · for Wisdom)」を開設する。

「知の市場」は、自立的で解放的な協力関係を形成しながら人々が自己研鑽と自己実現のために立場を越えて自ら活動する場(Voluntary Open Network Multiversity)である。そしてプロ人材の育成と高度な教養教育の接合及び社会人教育と学校教育の結合という二つの融合を促進する挑戦である。

【理念】

「知の市場」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場とする。

【基本方針】

1. 「知の市場」は、総合的な学習機会を提供するとともに実践的な学習機会を提供する。このため社会の広範な領域で活動を展開する機関が協力し、実社会で実践してきた多彩な講師によって開講する。
2. 「知の市場」は、科目、講師など開講に関する情報を十分に提供し、受講者が自己責任により自由に受講科目を選択することを基本とする。このため科目の内容や開講の実績などを事前に公開する。
3. 「知の市場」は、学生・院生を含む広範な分野の多様な社会人の受講を想定し、強い学習動機と積極的な参加意思を有する者を受講者とするを基本とする。
4. 「知の市場」は、科目を一つの単位として開講し受講することを基本とし、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価を行うことを原則とする。そして所定の成績を修めた受講者には、原則、受講修了証を発行する。
5. 「知の市場」は、知の市場で開講する科目を諸々の大学・大学院が学生・院生の履修科目として位置づけ単位取得の対象とすることを奨励するとともに、社会人の修士号、博士号の取得に活用することを推奨する。また、社会人に対して学校教育法に基づく履修証明書を発行することを勧奨する。
6. 「知の市場」は、開講機関や連携機関などが「知の市場」の活動を通して醸成した信頼関係をもとに、有志や若い力を積極的に糾合しながら連携・協力関係を深化させ、教育において新たな活動を試みることを推奨し支援する。

【運営体制】

1. 「知の市場」は、受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、協力者・協力機関、有志学生実行委員会、知の市場事務局などのそれぞれの活動によって構築する。
2. 受講者は、強い学習動機と積極的な参加意思を持って講義に参加し小論文(小レポート)などを提出しつつ自己研鑽に励むとともに、受講科目に関する調査や評価そして講座の運営などに自主的、自立的に協力することを通して「知の市場」に参画する。
3. 講師は、自立した個人として自らの経験や見識をもとに自律的に責任を持って講義を展開し受講者の学習意欲に応えることを通して「知の市場」に参画する。
4. 友の会は、「知の市場」の受講経験者と講師経験者などで構成し、「知の市場」に関する情報を共有するとともに調査や評価そして講座の運営などに自主的、自立的に協力することを通して「知の市場」に参画する。
5. 開講機関は、連携機関の支援を得つつ知の市場事務局と協力して自主的、自立的に講座を開講することによって「知の市場」に参画する。
6. 連携機関は、科目の構成、講師の配置、教材の作成など開講する科目を準備し講義の実施に自主的、自立的に取り組むことによって「知の市場」に参画する。
7. 連携学会は、「知の市場」に参画する受講者や講師に実社会に根ざした学術発表や論文投稿の機会を提供するとともに、自己研鑽と自己実現を深化するための場を提供することを通して「知の市場」に参画する。
8. 協力者・協力機関は、個人であると法人であるとを問わず、自発的意志により活動に参画する或いは活動を支援することによって「知の市場」に参画する。
9. 有志学生実行委員会は若い世代や経験豊かな世代の意見を集約して活動に反映させるとともに、豊かな経験と若い力を結集して運営に資することによって「知の市場」に参画する。
10. 知の市場事務局は、関係者の意見交換を促進し共通認識を深める機会を設けるとともに、「知の市場」の規範を策定し、また調査・分析・提言を行いつつ共通課題に対処し、連携機関や開講機関の活動そして受講者や講師の活動などを支援することによって「知の市場」に参画する。
11. 「知の市場」は、共催講座や関連講座を主催する開講機関、科目を組織する連携機関、並びに連携学会、有志学生実行委員会、知の市場事務局の代表及び議長によって構成する協議会を組織する。協議会は、「知の市場」の運営について審議し、円滑な実施のための連絡調整に資することによって「知の市場」に参画する。協議会の議長は会長として「知の市場」を代表する。
12. 「知の市場」は、外部の有識者、経験者などによって構成する評価委員会を組織する。評価委員会は、「知の市場」の実施状況および成果を大局的に検証し評価することによって「知の市場」に参画する。

Free Market of by for Wisdom		Voluntary Open Network Multiversity	
知の市場 「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して 人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場			
友の会		連携学会	
協力者・協力機関		有志学生実行委員会	
知の市場事務局		協議会	
		評価委員会	
I 教養編	愛知・名古屋市立大学(1)最新医学	名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅) 3期制、計3ユニット開講
	北アルプス・蝶ヶ岳	名古屋市立大学大学蝶ヶ岳ボランティア診療班	名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所 夏季、計1科目開講
	東京・戸山	国立感染症研究所	国立感染症研究所(東京メトロ早稲田駅、若松河田駅) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講
	東京・幡ヶ谷	製品評価技術基盤機構	製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅) 前期2科目、後期1科目、計3科目開講
	大阪・住之江	製品評価技術基盤機構	製品評価技術基盤機構製品安全センター 前期1科目、計1科目開講
	大阪・千里山	日本リスクマネジメントネットワーク 関西大学化学学生命工学部	関西大学千里山キャンパス(阪急千里線関大前駅) 後期2科目、計2科目開講
	東京・茗荷谷	化学工学会SCE・Net	筑波大学東京キャンパス(東京メトロ茗荷谷駅) 前期1科目、計1科目開講
	大阪・関西大学梅田キャンパス	関西大学	関西大学梅田キャンパス(阪急梅田駅・JR大阪駅) 前期1科目、計1科目開講
	茨城・つくば	農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門	つくば市を中心に複数個所 通年1科目、計1科目開講
	東京・放送大学文京学習センター	東京知の市場	放送大学文京学習センター(東京メトロ茗荷谷駅) 前期5科目、後期4科目、計9科目開講
II 専門編	愛知・名古屋市立大学(2)学びなおし	名古屋市立大学大学院医学研究科	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅) 2期制:各期3科目、通年1科目、計7科目開講
	東京・明治大学	明治大学リバティアカデミー	明治大学駿河台校舎リバティタワー(JR御茶ノ水駅) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講
III 研修編	鳥取・倉吉	動物臨床医学研究所	動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷(JR倉吉駅) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講
	埼玉・狭山元気プラザ	アダムジャパン	狭山元気プラザ、アダムジャパン(西武新宿線狭山市駅からバス) 後期1科目、計1科目開講
	福島・いわき	東洋システム	東洋システム(JR湯本駅) 通年1科目、計1科目開講
	東京・東京駅	東洋システム	アットビジネスセンター東京駅(JR東京駅八重洲口・地下鉄八丁堀駅) 前期1科目、計1科目開講
IV 大学・大学院編			

〔開講機関〕

1. 「知の市場」の理念を共有し、連携機関の支援を得つつ知の市場事務局と協力して、広報や受講者の募集、開講場所の確保、講義資料の準備などを行い、自主的、自立的に共催講座や関連講座を主催する機関を開講機関と位置づける。
2. 開講機関は、知の市場事務局と協力して、受講修了証や履修証明書などを発行する。
3. 開講機関は、知の市場事務局の支援を得つつ、「知の市場」を学生・院生の単位取得の対象とすることを推進し、また社会人の修士号や博士号の取得に活用することに努める。
4. 開講機関を添付表 1 に示す。

〔連携機関〕

1. 「知の市場」の理念を共有し、開講機関や知の市場事務局と協力して、「知の市場」の科目の構成、講師の配置、教材の作成など開講する科目を準備し講義の実施に自主的、自立的に取り組む機関を連携機関と位置づける。
2. 連携機関は、講師と連携を密にして講義の内容、資料、手法などの改善に常時取り組む。
3. 連携機関は、開講機関と協力して講義の円滑な実施に努めるとともに、成績評価などを行う。
4. 連携機関を添付表 2 に示す。

〔連携学会〕

1. 「知の市場」の理念を共有し、「知の市場」に参画する受講者や講師に実社会に根ざした学術発表や論文投稿の機会を提供するとともに自己研鑽と自己実現を深化するために研究会などの場を提供する学会を連携学会と位置づける。
2. 当面次の学会を連携学会とする。
 - 1) 社会技術革新学会（詳細は <http://www.s-innovation.org/>を参照下さい。）
 - 2) 化学生物総合管理学会（詳細は <http://www.cbims.net/>を参照下さい。）

〔協力者・協力機関〕

1. 「知の市場」の理念を共有し、ホームページへの掲載やメール配信などによる広報、資金や開講場所の提供などの種々の方法によって、自発的意志に基づき「知の市場」の活動を支援する個人や機関を、協力者・協力機関と位置づける。
2. 協力者・協力機関の協力内容については、原則として情報を開示する。
3. 協力者・協力機関を添付表 3 に示す。

〔友の会〕

1. 「知の市場」の理念を共有し、知の市場の受講者や講師、有志学生実行委員会や知の市場事務局、開講機関や連携機関、そして連携学会の事務局などの関係者が集う組織を知の市場友の会と位置付ける。
2. 友の会は、知の市場に関する情報を共有するとともに、調査や評価、講座の運営に自主的、自立的に協力することを通して知の市場に参画する。

〔有志学生実行委員会〕

1. 「知の市場」の理念を共有し、「知の市場」に自主的に参画し自発的に役割を果たす意思を有する学生や院生及びこれに準ずる者などの若い者並びに経験豊かな有志が集う組織を有志学生実行委員会と位置付ける。
2. 有志学生実行委員会は、若い力と豊かな経験を結集して知の市場の運営を支援するとともに若い世代や経験豊かな世代が求める科目構成や講義内容などを把握して必要な提言を行う。
3. 有志学生実行委員会は、受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、協力者・協力機関などの関連者と連携しながら、知の市場事務局と一体となって活動する。
4. 有志学生実行委員会の構成員を添付表 4 に示す。

〔知の市場事務局〕

1. 関係者の意見交換を促進し共通認識を深める機会を設けるとともに、「知の市場」の規範の策定や広報などの共通課題に対処し、連携機関や開講機関の活動そして受講者や講師の活動などを支援する組織を知の市場事務局と位置づける。
2. 知の市場事務局は、開講機関や連携機関、受講者や講師などの協力を得て、知の市場の運営に係わる調査、科目構成や講義内容などの改善を図るための調査などを行うとともに、分析、評価して必要な提言を行う。
3. 知の市場事務局は、知の市場の会長と密接な連携を保ちつつ活動する。

〔協議会〕

1. 「知の市場」の運営について審議し、円滑な実施のための連絡調整の場として協議会を設置する。
2. 協議会は、共催講座や関連講座を主催する開講機関、科目を組織する連携機関、並びに連携学会、有志学生実行委員会、知の市場事務局などの代表及び議長で構成する。
3. 協議会の議長は互選とし、協議会議長をもって知の市場の会長とする。
4. 協議会の構成員を添付表 5 に示す。

〔評価委員会〕

1. 「知の市場」の実施状況および成果を大局的に検証し評価する場として、外部の有識者、経験者などを構成員とする評価委員会を設置する。
2. 評価委員は個人の資格で評価委員会に参画し、個人としての見識に基づいて意見を述べる。
3. 評価委員会の構成員を添付表 6 に示す。

〔共催講座〕

1. 「知の市場」は、「知の市場」の理念と基本方針に沿いつつ「知の市場」の運営体制を踏まえて、連携機関の協力のもと開講機関の主催により共催講座を開講する。
2. 共催講座は、自らを活かしつつ社会と世界において活動を展開していく幅広い基盤を固めるために広範な領域で開講するが、時代の進展などに配慮しつつ適宜見直し進化する。
3. 1科目は原則120分授業15回2単位で構成し、科目単位で開講し受講する。科目はその分野に応じて分類するほか、水準に応じて基礎、中級、上級に位置づける。

〔関連講座〕

1. 「知の市場」の活動の輪を広げるため、共催講座での経験を活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって「知の市場」の理念を共有する活動を関連講座として位置づける。
2. 関連講座は、「知の市場」の基本方針を念頭に置きつつも諸般の状況を踏まえて個々の開講機関が自らの主体性と責任のもとで柔軟かつ弾力的に運営する。
3. 講座は講義回数などによってユニット、科目、コースに分類する。当面、教養編、専門編、研修編、大学・大学院編の4つの領域を設定する。

【沿革】

(第0期：黎明期 ～2003年度)

1980年代に社会構造変化と技術革新に関する調査を出版し、1990年代に産業技術の歴史の継承と未来への創造、化学と地球環境、科学的方法論が先導する安全論議などに関する調査を出版する。

1998年度に「現の世界」に対して「知の世界」が存在感を増す「知の時代」が到来する中で「知の世界」の再構築が不可欠であることを提起する。2000年度に実社会で実践してきた経験とともに大学・大学院などで教鞭をとった経験を有する有志が集い教育に関する論議を開始する。

2002年度に好奇心のための科学(Science for Curiosity)や欲求のための科学(Science for Desire)に対して社会のための科学(Science for Society)や政策のための科学(Science for Policy)そして規範のための科学(Regulatory Science)が世界の学界で論じられる新たな情勢を踏まえて、実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指す活動を本格化する。

2003年度に「互学互教」、「社会学連携」、「知の市場」などの概念を創造し提起する。

また、時代の変化に即応しつつ体系的な講座を展開するため、科目構成や講師配置などを担う連携機関の概念を提起するとともに協力関係を構築する。そして、理念を共有する有志を糾合して、実社会に根ざした教材の作成を本格的に開始する。

(第Ⅰ期：形成期 2004～2008年度)

2004年度に実社会での実践的活動をもとにした学会発表や論文投稿を促進するため、化学生物総合管理学会を設立して連携学会の体制を創るとともに、5年計画で「化学・生物総合管理の再教育講座」を開始する。

2006年度に「現場基点」の概念を提起し、「互学互教」、「社会学連携」の概念に追加し、「知の市場」の理念を完成する。また、実社会での実践的活動をもとにした学会発表や論文投稿を促進するため、社会技術革新学会を設立し、連携学会の体制を強化する。

2008年度に「化学・生物総合管理の再教育講座」の視野を拡大し新たな展開を図るため、「知の市場」の理念を中心に据え新展開を開始するとともに、開講機関の概念を導入して運営体制を強化する。

形成期の5年間を通して理念や基本方針が広く全国から支持され、毎年平均して2拠点で2開講機関、24連携機関そして346名の講師の参画のもと44科目を開講して6,017名の応募者が参加して高い評価を得る。

(第Ⅱ期：展開期 2009～2012年度)

第Ⅱ期は、「化学・生物総合管理の再教育講座」を発展的に継承しつつ、「知の市場」として開講科目の分野を拡大しながら全国への展開を推進するとともに、自立的にして自律的に活動する基盤の構築を本格化する。

展開期の4年間を通して毎年平均して29拠点で30開講機関、38連携機関そして625名の講師の参画のもと85科目を開講して13,848名の応募者が参加して高い評価を得る。

(第Ⅲ期：完成期 2013～2014年度)

第Ⅲ期は、それまでの成果を踏まえつつ社会を構成する多彩な者が自主的に参画する活動として「知の市場」がさらに自立的にして自律的に発展していくための基盤を確立をする。

完成期の2年間を通して毎年平均して43拠点で45開講機関、47連携機関そして706名の講師の参画のもと95科目を開講して5,859名の応募者が参加して高い評価を得て知の市場が社会に定着するとともに、ボランティア活動として知の市場を発展させていくための諸規定や情報システムなどの諸々の基盤を確立した。

(第Ⅳ期：進化期 2015年度～)

全国津々浦々の社会を構成する多彩な者が自主的に参画する自立的にして自律的な教育活動として「知の市場」は、常に教育内容の向上に努めつつ全国展開を図るとともに、効果的かつ効率的な運用を心がけ、さらなる進化を期する。

Rinen

添付表 1 : 開講機関一覧

分類	開講機関	ホームページ
研究機関 専門機関	国立感染症研究所	http://www.nih.go.jp/niid/ja/
	製品評価技術基盤機構	http://www.nite.go.jp/
	動物臨床医学研究所	http://www.dourinken.com/
	農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門	http://www.naro.affrc.go.jp/nias/gmo/opencollege/index.htm
業界団体 産業界	アダムジャパン	http://www.adam-japan.com/
	化学工学会 SCE・Net	http://www.sce-net.jp/
	東洋システム	http://www.toyosystem.co.jp/
学校・大学・学会	関西大学	http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/
	名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/openc
	名古屋市立大学大学院医学研究科	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/
	名古屋市立大学蝶が岳ボランティア診療班	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyogatake.htm
	放送大学(協賛)	http://www.ouj.ac.jp/
	明治大学リバティアカデミー	http://academy.meiji.jp/ccs/index.html
	関西大学化学生命工学部	http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_che/
非営利団体 消費者団体	東京知の市場	http://www.chinoichiba.org/index.html
	日本リスクマネージャネットワーク	http://jrmn.net/

2018年4月1日以降 合計 16 機関

Rinen

添付表 2 : 連携機関一覧

分類	連携機関	ホームページ
研究機関 専門機関・	国立感染症研究所	http://www.nih.go.jp/niid/ja/
	製品評価技術基盤機構	http://www.nite.go.jp/
	動物臨床医学研究所	http://www.dourinken.com/
	農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門	http://www.naro.affrc.go.jp/nias/gmo/opencollege/index.html
団体 公共	狭山市	http://www.city.sayama.saitama.jp/
業界団体 産業界・	アダムジャパン	http://www.adam-japan.com/
	化学工学会 SCE・Net	http://www.sce-net.jp/
	東洋システム	http://www.toyosystem.co.jp/
大学・学会	関西大学	http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/
	名古屋市立大学大学院医学研究科	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/opencollege.html
	名古屋市立大学蝶が岳ボランティア診療班	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyogatake.htm
	日本環境動物昆虫学会	http://kandoukon.org/
	放送大学	http://www.ouj.ac.jp/
	明治大学リバティアカデミー	https://academy.meiji.jp/
非営利団体 消費者団体	サステナビリティ消費者会議	http://cfs2014.jimdo.com/
	日本リスクマネージャネットワーク	http://jrmn.net/
市民	林浩次	-
	原田節雄	-
	細田覚(化学産業教育研究会)	-
	増田優	-
	山口登	-

2018年4月1日以降 合計 21 機関

Rinen

添付表3：協力者・協力機関一覧

分類	協力機関	ホームページ	協力内容
専門機関・研究機関	科学技術振興機構	http://scienceportal.jp/	HP掲載
	久山獣医科病院	http://www.kuyama-vet.com/	HP掲載
	製品評価技術基盤機構化学物質管理センター	http://www.nite.go.jp/	メール配信
	地方衛生研究所全国協議会	http://www.chieiken.gr.jp	メール配信
	東京都環境科学研究所	http://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/	メール配信
	東京食育推進ネットワーク	http://www.maff.go.jp/kanto/chiikinet/tokyo/tokyo_syokuiku_network.html	HP掲載、リンク
	日本環境整備教育センター	http://www.jeces.or.jp/	HP掲載
	日本実験動物技術者協会	http://www.jaeat.org	HP掲載
	日本実験動物協会	http://www.nichidokyo.or.jp	メール配信
	日本知的財産翻訳協会	http://www.nipta.org/	HP掲載、Facebook掲載
	日本特許情報機構	http://www.japio.or.jp/	HP掲載
	日本労働安全衛生コンサルタント会	http://www.jashcon.or.jp/	HP掲載
	発明推進協会	http://www.jiii.or.jp/	メール配信
	バイオインダストリー協会	http://www.jba.or.jp/	メール配信
	産業界・業界団体	未踏科学技術協会ナノ粒子研究会	http://www.snt.or.jp/nano/
生協総合研究所		http://ccij.jp/	メール配信
イカリ消毒		http://www.ikari.jp/column/c1_gaicyu.html	HP掲載
エコロジーエクスプレス		https://www.ecologyexpress.jp/content/index.jsp	メール配信
塩ビ工業・環境協会		http://www.vec.gr.jp	HP掲載、メール配信
化成品工業協会		http://www.kaseikyo.jp/	HP掲載
合成樹脂工業協会		http://www.jt pia.jp/	メール配信
新化学技術推進協会		http://www.jaci.or.jp/	HP掲載
全国ビジネスネットワーク協会		http://nbna.jp/	HP掲載
ナノテクジャパン		http://nanonet.mext.go.jp/	HP掲載、メール配信
ナノテクノロジービジネス推進協議会		http://www.nbci.jp/	HP掲載、メール配信
日本アパレル工業技術研究会		http://www.jat-ra.com/	メール配信
日本界面活性剤工業会		http://www.jp-surfactant.jp	HP掲載
日本酸化チタン工業会		http://www.sankaitan.org/	メール配信
日本食品添加物協会		http://www.jafaa.or.jp/	メール配信
日本塗料工業会		http://www.toryo.or.jp	HP掲載
日本難燃剤協会		http://www.frcj.jp	HP掲載
日本ファインセラミックスセンター		http://www.jfcc.or.jp/	メール配信
日本プラスチック工業連盟		http://www.jpif.gr.jp/	メール配信
日本プラスチック板協会		http://www.p-bankyo.com/	HP掲載、メール配信
日本粉体工業技術協会		http://www.appie.or.jp:	HP掲載
日本ペストコントロール協会		http://www.pestcontrol.or.jp	HP掲載、メール配信
日本ポリエチレン製品工業連合会		http://www.jpe.gr.jp/	メール配信
日本無機薬品協会		http://www.mukiyakukyo.gr.jp/profile/com.htm	HP掲載、メール配信
日本有機過酸化工業会		http://www.j-opa.jp/	メール配信
農薬工業会		http://www.jcpa.or.jp/	HP掲載
プラスチック循環利用協会		http://www.pwmi.or.jp/	メール配信
ポリカーボネート樹脂技術研究会	http://www.polycarbo.gr.jp/	メール配信	

Rinen

分類	協力機関	ホームページ	協力内容
大学	筑波大学	http://www.tsukuba.ac.jp/	資料揭示
	お茶の水女子大学	http://www.ocha.ac.jp/	HP掲載、メール配信
	拓殖大学	http://www.takushoku-u.ac.jp/	資料揭示
学会	安全性評価研究会	http://www.tanigaku.gr.jp/	メール配信
	科学コミュニケーション研究会	http://www.scicomsociety.jp/	メール配信
	環境アセスメント学会	http://www.jsia.net	HP掲載、メール配信
	環境技術学会	http://jriet.net/index.html	HP掲載
	植物化学調節学会	http://www.jsgrp.jp/	HP掲載
	生物化学的測定研究会	http://wwwsoc.nii.ac.jp/icsj/	HP掲載
	ナノ学会	http://www.ac-square.co.jp/nano/	HP掲載
	日本ウイルス学会	http://jsv.umin.jp/	HP掲載
	日本応用動物昆虫学会	http://odokon.org/	HP掲載、メール配信
	日本家屋害虫学会	http://www.kaokugaichu.jp/	HP掲載
	日本環境協会	http://www.jeas.or.jp	HP掲載
	日本感染症学会	http://www.kansensho.or.jp	HP掲載
	日本外科感染症学会	http://www.gekakansen.jp/index_j.html	HP掲載
	日本感染症医薬品協会	http://www.antibiotics.or.jp/jara/jara-top.htm	HP掲載
	日本産業衛生学会	http://www.sanei.or.jp/	HP掲載
	日本知財学会	http://www.ipaj.org/	HP掲載
	日本毒性学会	http://www.jsot.gr.jp/index.html	リンク
	日本毒性病理学会	http://wwwsoc.nii.ac.jp/jstp3/	HP掲載、リンク
	日本農芸化学会	http://www.jsbba.or.jp/	HP掲載
	日本農薬学会	http://pssj2.jp/	HP掲載
日本リスク研究学会	http://www.sra-japan.jp/cms/	メール配信	
日本臨床微生物学会	http://www.jscm.org	HP掲載	
日本ワクチン学会	http://www.jsvac.jp	HP掲載	
消費者団体・市民団体・非営利団体	エネルギー問題に発言する会	http://www.engy-sqr.com/	メール配信
	桜蔭会	http://www.ouinkai.org/	HP掲載
	桜化会	http://www.sci.ocha.ac.jp/chemHP/ouca/	メール配信
	お茶の水女子大学消費生活協同組合	http://www.univcoop.jp/ocha/	資料揭示
	かながわエコBOX	http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f70237/	HP掲載
	教育研究機関化学物質管理ネットワーク	http://www.kyokanet.jp/	リンク
	Chem-Station	http://www.chem-station.com/	HP掲載、メール配信
	作楽会	http://www.ocha-sakurakai.org/index.html	HP掲載
	食品保健科学情報交流協議会	http://www.ccfhs.or.jp/	HP掲載
	駐日韓国学大使館 韓国文化院	http://www.koreanculture.jp/	HP掲載
	日本環境財団	http://www.jef.jp	パンフレット記載
	日本生活協同組合連合会	http://jccu.coop/	メール配信
	日本同伴犬協会	http://www.dogside.org/html/jcda.html	メール配信
	日本動物福祉協会	http://www.jaws.or.jp/	HP掲載

2018年6月6日現在 合計 82 機関

Rinen

添付表 4 : 有志学生実行委員会構成員一覧

学 生 実 行 委 員 (10 名)	お茶の水女子大学	家政茜
		齊藤彩
		野口舞子
		野村春佳
		前川紗葵
		渡辺華子
		金宝藍
		櫻井理沙
	東京大学	吉原有里
		板東久美子
		吉原有里
	顧問	板東久美子
	有志実行委員(19 名)	赤松孝将
粟谷しのぶ		
今給黎佳菜		
榎尚史		
奥田有香		
川内美佳		
神田尚俊		
栗原博文		
見坊直哉		
須田春香		
林浩次		
樋口敬一		
福島麻子		
松脇みちる		
松山奈央		
山崎徹		
三上奈緒子		
吉村玖瑠美		

2018 年 6 月 6 日現在 合計 29 名

Rinen

添付表 5 : 知の市場協議会構成員一覧

	委員名(敬称略)	開講機関・連携機関
開講機関	林浩次 下條佑一 原田節雄 山口登 見坊直哉 細田覚	東京知の市場
	宮崎隆介 久保田俊美	日本リスクマネージャネットワーク
	広報室	製品評価技術基盤機構
	田部井豊 石川達夫 四方雅仁	農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門
	中尾眞	化学工学会SCE・Net
	山根義久	動物臨床医学研究所
	角田禮子	関西消費者連合会
	開根沙織 長矢賢治 津森眞佐秋	アダムジャパン
	脇田隆字 椎野禎一郎 阿戸学 大西和夫	国立感染症研究所
	酒々井真澄 飛田秀樹 榎原毅 林邦浩 五十嵐達也	名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ、 名古屋市立大学学びなおし支援センター
	和田美美子	明治大学リバティアカデミー
	庄司秀樹 丹野諭 竜崎千里 芦川睦未 庄司宏明	東洋システム
	永松伸吾 藤田由典	関西大学社会安全学部
	岡野達雄 布施典明 角田俊行	放送大学
	大島昌子	サステナビリティ消費者会議
	吉田宗弘	関西大学化学生命工学部
	連携機関	安部八洲男
下條佑一		放送大学
西美緒 永井愛作		社会技術革新学会リチウム電池教育研究会
林浩次		個人
原田節雄		個人
山口登		個人
細田覚		個人(化学産業教育研究会)
増田優	個人	
実行有志学生会	家政茜 野口舞子 齊藤彩 前川紗葵 野村春佳 渡辺華子	学生実行委員(お茶の水女子大学)
	金宝藍 櫻井理沙 吉原有里	学生実行委員(東京大学)
	赤松孝将 榎尚史 栗谷しのぶ 今給黎佳菜 神田尚俊 奥田有香 川内美佳 福島麻子 須田春香 樋口敬一 和田佳子 林浩次 山崎徹 栗原博文 松山奈央 松脇みちる 見坊直哉 三上奈緒子 吉村玖瑠美	有志実行委員
	増田優	知の市場協議会議長
	会長	

2018年4月1日以降 合計25機関(72名)

Rinen

添付表6：知の市場評価委員会構成員一覧

委員名（敬称略）	所属	肩書	分類
相澤益男	科学技術振興機構	顧問（東京工業大学元学長・元総合科学技術会議議員）	大学
浅井清文	名古屋大学 医学研究科分子神経生物学分野	教授	大学
朝隈純俊	住友ベークライト	取締役常務執行役員	産業界
阿尻雅文	東北大学 未来科学技術共同研究センター	教授	大学
阿南忠明			市民
安部誠治	関西大学社会安全学部	教授（元学部長）	大学
阿部博之	科学技術振興機構	顧問（東北大学元総長・元総合科学技術会議議員）	大学
粟谷しのぶ		弁護士	市民
磯知香子			市民
井上睦子	文部科学省	高等教育局私学部参事官(学校法人担当)	公共団体
今給黎佳菜			市民
内ヶ崎功	日立化成	元社長・元会長	産業界
榎尚史			市民
及川信一			市民
大川秀郎	中国農業科学院油糧作物研究所	特聘教授（神戸大学名誉教授）	大学
大川原正明	大川原化工機	社長	産業界
大久保明子			市民
奥田有香			市民
刑部南月子		教員	市民
梶山千里	福岡女子大学（元九州大学）	理事長兼学長(元九州大学総長)	大学
数瀬明美	日本リスクマネージャネットワーク		非営利団体
軽部征夫	東京工科大学	学長（東京大学名誉教授）	大学
河端茂	YKK AP	商品品質管理部	産業界
神田尚俊	東京農工大学	名誉教授(元副学長 理事)	大学
菊田安至	福山大学 社会連携研究推進センター	教授	大学
菊池久	製品評価技術基盤機構	元理事	市民
岸輝雄	物質・材料研究機構	顧問	専門機関
岸田春美			市民
岸田文雄			市民
金 得永	東京韓国学校	学長	大学
倉内憲孝	住友電工	名誉顧問（元会長・社長）	産業界
倉根 一郎	国立感染症研究所	元所長	専門機関
栗原 脩			市民
栗原博文	狭山商工会議所	元産業労働センター所長	市民
桑原洋	日立製作所	元副会長	産業界
倉田毅	国際医療福祉大学	教授（元国立感染症研究所長）	専門機関
小出重幸	読売新聞	元編集委員	報道機関
小宮山宏	三菱総合研究所（元東京大学）	理事長（元東京大学総長）	大学
佐野真理子	主婦連合会		消費者団体
白井克彦	早稲田大学・放送大学学園	元総長・元理事長	大学
白井淳資	東京農工大学農学部獣医学科	教授	大学
白水忠隆	生協総合研究所	研究員	専門機関
須藤繁	帝京平成大学	教授	大学
高橋俊彦	J S R	元環境安全部	産業界
高安礼士	福岡市科学館	プロジェクトアドバイザー	市民
竹山春子	早稲田大学大学院 早稲田大学先進理工学研究所	教授	大学
田村爾	プロメテ国際特許事務所	弁護士	専門機関
津田喬子	名古屋市立東部医療センター	名誉院長	大学
津田洋幸	名古屋市立大学	特任教授	大学
常盤豊	文部科学省	元大臣官房審議官	公共団体
都甲由紀子	大分大学	教授	大学
中島幹	綜研化学	相談役（元会長・社長）	産業界
長田敏	製品評価技術基盤機構		専門機関
水田裕子	みずほ情報総研	コンサルティング業務部次長	専門機関
長野慶士	西村あさひ法律事務所	弁護士	専門機関
中村幸一			市民
西野仁雄	名古屋市立大学	元学長	大学
野中哲昌	ダイセル	大阪本社 品質監査室長 兼 レスポンシブル・ケア室長補佐	産業界
橋都なほみ	じほう	編集主幹	報道機関
畑和秀	武田薬品工業		産業界
馬場政二	放送大学		市民
板東久美子	消費者庁	元長官	公共団体
樋口敬一			市民
日高賢治	日高東亜国際特許事務所	弁護士	専門機関
福島麻子			市民
福永忠恒			市民
星川欣孝	ケミカルリスク研究所		産業界
細田覚	元住友化学		産業界
保利一	産業医科大学	産業保健学部長	大学
前田浩平	三洋化成工業	元執行役員	産業界
増田和子	増田襄和堂	表具師	市民
三浦千明			市民
溝口忠一			市民
向殿政男	明治大学	校友会会長、名誉教授	大学
村田康博	YKK		産業界
守谷恒夫	住友ベークライト	元会長・社長	市民
保田浩志	広島大学原爆放射線医学研究所	教授	大学
山崎徹	化学工学会SCE・Net		産業界
山下俊一	長崎大学大学院医薬学総合研究科	教授	大学
山本佳世子	日刊工業新聞社	論説委員兼編集委員	報道機関
結城命夫			市民
吉田淑則	JSR	元会長・社長	産業界
渡邊治雄	国立感染症研究所	元所長	専門機関

注：評価委員は個人の資格で評価委員会に参画し、個人としての見識に基づいて意見を述べる。

2018年4月1日以降 合計83名

知の市場

—講座の概要(2018年度改訂版)—

人間は多様な危機に曝されつつ多様な機会に巡り合う中で技術革新、制度改革、人材改新を通して社会変革を成し遂げながら生活をしてきた。しかし日本も世界も未だ多くの課題を抱えている。こうした中において自らを活かしつつ社会と世界において活動を展開していく幅広い基盤を固めるためには、広範な教養を高めていくことが必須である。

社会の幅広い領域において諸々の機関が人々の多様な要請に応じて学習の機会を提供している。また、多彩な背景を持つ人々がそれぞれの立場で役割を担いつつ勉学に励んでいる。こうした力を糾合して新たな総合的かつ実践的な学習の機会を創成すべく「知の市場 (FMW : Free Market of · by · for Wisdom)」を開設した。

第0期(黎明期: ~2003年度)を経て第I期(形成期: 2004~2008年度)に「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講して以来、第II期(展開期: 2009~2012年度)には自立的な活動として全国に展開を拡大した。そして、自律的に発展していくための基盤を確立する第III期(完成期: 2013~2014年度)まで実質10年間にわたり、総合的かつ実践的な学習の機会を提供してきた。

この成果を踏まえて、知の市場は自立的で解放的な協力関係を形成しながら人々が自己研鑽と自己実現のために立場を越えて自ら活動する場(Voluntary Open Network Multiversity)として存在感を示している。そしてプロ人材の育成と高度な教養教育の接合及び社会人教育と学校教育の連結という二つの結合を促進すべく挑戦している。

毎年平均して第I期は2拠点で346名の講師の参画により44科目を開講し1203名の応募者が参加し、第II期は29拠点で625名の講師の参画により68科目を開講し3462名の応募者が参加し、第III期は43拠点で706名の講師の参画により95科目を開講し2930名の応募者が参加した。実質10年間で毎年平均して19拠点で513名の講師の参画により68科目を開講し2573名の応募者が参加し、合計5643名の講師と延べ25725名の応募者があった。2018度は合計16拠点で310名の講師の参画により42科目を開講する。このうち、2018年度の新規開講科目は合計16科目である。

そして2018年度の内訳は、教養編として東京知の市場が放送大学との協賛で2科目、名古屋市立大学大学院が3ユニット、国立感染症研究所が2科目、製品評価技術基盤機構が4科目、化学工学会 SCE・Net が1科目を開講し、新規に名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班が1科目、日本リスクマネージャネットワークと関西大学化学生命工学部が共同で2科目、関西大学が1科目、農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門が1科目、東京知の市場が放送大学との協賛で7科目を開講する。専門編として名古屋市立大学学びなおし支援センターが6科目、明治大学リバティアカデミーが2科目を開講する。新規に名古屋市立大学大学院医学研究科が1科目を開講する。加えて、研修編として動物臨床医学研究所が2科目、アダムジャパンが1科目、東洋システムが2科目を開講し、大学・大学院編として放送大学が新規に4科目を開講する。

【体系と機能】

Free Market of · by · for Wisdom

Voluntary Open Network Multiversity

知の市場

「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社学連携」を旗印として
 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して
 人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自立的に集う場

友の会 連携学会 協力者・協力機関 有志学生実行委員会 知の市場事務局 協議会 評価委員会

I 教養編	愛知・名古屋市立大学(1)最新医学	名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅) 3期制、計3ユニット開講
	北アルプス・蝶ヶ岳	名古屋市立大学大学蝶ヶ岳ボランティア診療班	名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所 夏季、計1科目開講
	東京・戸山	国立感染症研究所	国立感染症研究所(東京メトロ早稲田駅、若松河田駅) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講
	東京・幡ヶ谷	製品評価技術基盤機構	製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅) 前期2科目、後期1科目、計3科目開講
	大阪・住之江	製品評価技術基盤機構	製品評価技術基盤機構製品安全センター 前期1科目、計1科目開講
	大阪・千里山	日本リスクマネジヤネットワーク 関西大学化学生命工学部	関西大学千里山キャンパス(阪急千里線関大前駅) 後期2科目、計2科目開講
	東京・茗荷谷	化学工学会SCE・Net	筑波大学東京キャンパス(東京メトロ茗荷谷駅) 前期1科目、計1科目開講
	大阪・関西大学梅田キャンパス	関西大学	関西大学梅田キャンパス(阪急梅田駅・JR大阪駅) 前期1科目、計1科目開講
	茨城・つくば	農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門	つくば市を中心に複数箇所 通年1科目、計1科目開講
	東京・放送大学文京学習センター	東京知の市場	放送大学文京学習センター(東京メトロ茗荷谷駅) 前期5科目、後期4科目、計9科目開講
II 専門編	愛知・名古屋市立大学(2)学びなおし	名古屋市立大学大学院医学研究科	名古屋市立大学川澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅) 2期制:各期3科目、通年1科目、計7科目開講
	東京・明治大学	明治大学リバティアカデミー	明治大学駿河台校舎リバティアワー(JR御茶ノ水駅) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講
III 研修編	鳥取・倉吉	動物臨床医学研究所	動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷(JR倉吉駅) 前期1科目、後期1科目、計2科目開講
	埼玉・狭山元気プラザ	アダムジャパン	狭山元気プラザ、アダムジャパン(西武新宿線狭山市駅からバス) 後期1科目、計1科目開講
	福島・いわき	東洋システム	東洋システム(JR湯本駅) 通年1科目、計1科目開講
	東京・東京駅	東洋システム	アットビジネスセンター-東京駅(JR東京駅八重洲口・地下鉄八丁堀駅) 前期1科目、計1科目開講
IV大学・大学院編			

I. 教養編

1. 愛知・名古屋市立大学（1）最新医学 知の市場

（1）開講機関

名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ

名古屋市立大学健康科学講座オープンカレッジが2014年度から名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジに改称された。

詳細は <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/philanthropy/opencollege.html> を参照する。

（2）開催場所

名古屋市立大学 川澄キャンパス（名古屋市地下鉄桜山駅前）

（3）概要

市民の日々の生活を実りあるものにし将来の生活設計に資するために、名古屋市立大学医学部の基礎・臨床分野が蓄積している最新の研究情報を市民にわかりやすく解説し自己研鑽と再学習の場を提供することを目的とする名古屋市立大学健康科学講座オープンカレッジは、医療・健康に関する基礎的な科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、3期に分けて3ユニットを開講する。

1) 継続科目として3ユニット

①名古屋市立大学大学院医学研究科

最新医学に関する3ユニット（第1、2、3期講座）

講師陣は名古屋市立大学大学院医学研究科の教員を中心に、各ユニットのコーディネーターの下で学内他研究科の教員そして外部の研究者や実務家も参加している。受講者は大学生・大学院生も含めて医療・福祉関係や教育関係など幅広い社会人を応募対象とする。90分授業8回からなるユニットを毎年開講する。金曜日（18時30分～20時）に開催する。

6回以上出席者には受講修了証を発行する。受講料は1ユニットあたり8,000円である。

開催年度	ユニット数	受講者数	修了者数
2005	5	403	284
2006	6	497	390
2007	6	412	342
2008	6	371	256
2009	3	222	175
2010	3	227	173
2011	3	180	137
2012	3	218	173
2013	3	325	277
2014	3	327	289
2015	3	347	301
2016	3	359	299
2017	3	334	287
2018	3		
合計	50	4,222	3,383

(2018年6月6日現在)

2. 北アルプス・蝶ヶ岳 知の市場

(1) 開講機関

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

詳細は <http://chogatake.umin.jp/syukai.html> を参照する。

(2) 開催場所

北アルプス・蝶ヶ岳 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所

(3) 概要

名古屋市立大学の学生・院生と教職員の有志が、登山者の健康管理のために長年にわたり毎年夏に開設している蝶ヶ岳ボランティア診療所の活動と並行して開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、夏季に1科目を開講する。

1) 新規科目として1科目

①名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班

登山や健康・医学そして自然などに関する幅広い内容の科目（夏季）

受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2018	1		
合計	1		

(2018年6月6日現在)

3. 東京・戸山 知の市場

(1) 開講機関

国立感染症研究所

詳細は <http://www.nih.go.jp/niid/ja/> を参照する。

(2) 開催場所

国立感染症研究所（東京メトロ早稲田駅、若松河田駅）

(3) 概要

我が国唯一の感染症に関する総合的な研究を行う国立感染症研究所は、感染症とその防御に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、前期に1科目、後期に1科目の合計2科目を開講する。

1) 継続科目として2科目

①国立感染症研究所

現在問題となっている感染症との闘いに関する科目（前期）

ワクチンを中心とした感染症対策に関する科目（後期）

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2012	2	81	21
2013	2	70	32
2014	2	47	18
2015	2	54	28
2016	2	64	26
2017	2	66	27
2018	2		
合計	12	382	152

(2018年6月6日現在)

4. 東京・幡ヶ谷 知の市場

(1) 開講機関

製品評価技術基盤機構

詳細は <http://www.nite.go.jp/>を参照する。

(2) 開催場所

製品評価技術基盤機構（京王新線 幡ヶ谷駅）

(3) 概要

製品安全、化学物質管理、バイオテクノロジー、適合性認定の4分野で活動する製品評価技術基盤機構は、微生物資源、バイオ安全、製品安全分野に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、前期に2科目、後期に1科目の合計3科目を開講する。

1) 継続科目として3科目

①製品評価技術基盤機構

化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識やリスクコミュニケーションの重要性などに関する科目（前期）

②製品評価技術基盤機構

微生物資源の活用とバイオ安全の基礎知識に関する科目（前期）

③製品評価技術基盤機構

製品事故の現状と製品安全対策について、具体的事例に基づいて分析考察しながら今後の事故防止方策や政策のあり方について論ずる科目（後期）

受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2011	1	46	28
2012	1	48	26
2013	2	59	32
2014	2	62	33
2015	2	56	47
2016	3	131	131
2017	3	182	182
2018	3		
合計	13	584	479

(2018年6月6日現在)

(注1)2011～2014年度の開講実績は、主婦連合会と共催で東京・四ツ谷の主婦会館で開講した科目を含む。

5. 大阪・住之江 知の市場

(1) 開講機関

製品評価技術基盤機構

詳細は <http://www.nite.go.jp/>を参照する。

(2) 開催場所

製品評価技術基盤機構製品安全センター

(3) 概要

製品安全、化学物質管理、バイオテクノロジー、適合性認定の4分野で活動する製品評価技術基盤機構は、事故原因の究明などの製品安全分野に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、前期に1科目を開講する。

1) 継続科目として1科目

①製品評価技術基盤機構

2011年度に製品評価技術基盤機構と関西消費者連合会の共催で開講した科目を継承して、製品事故の現状と製品安全対策について、具体的事例に基づいて分析考察しながら今後の事故防止方策や政策のあり方について論ずる科目（前期）

この科目は、大阪にて前期に開講するほか、後期に東京にて開講する。

受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	1	12	4
2006	3	96	56
2007	3	106	58
2008	4	141	84
2009	2	70	53
2010	1	35	28
2011	1	15	8
2012	1	50	29
2013	1	33	18
2014	1	39	20
2015	1	26	21
2016	1	35	35
2017	1	59	59
2018	1		
合計	21	717	473

(注)2009年度以前は継承した科目が他の開講機関で開講した数を含む。(2018年6月6日現在)

6. 大阪・千里山 知の市場

(1) 開講機関

日本リスクマネージャネットワーク

詳細は<http://www.jrmn.net/>を参照する。

関西大学化学生命工学部

詳細はhttp://www.kansai-u.ac.jp/Fc_che/を参照する。

(2) 開催場所

関西大学千里山キャンパス（阪急千里線関大前駅）

(3) 概要

リスクマネジメントの普及や支援に取り組むとともにリスクマネージャとしての資質を磨き、社会の安全、安心の向上に資することを目的に活動する日本リスクマネージャネットワークは身近な生活・環境害虫の防除や環境問題に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して後期に2科目を開講する。

1) 継続科目として2科目

①日本環境動物昆虫学会

身近な生活・環境害虫の防除に関する科目（後期）

②日本リスクマネージャネットワーク

市民の環境問題入門に関する科目（後期）

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2009	2	43	30
2010	3	39	31
2011	3	27	16
2012	2	34	10
2013	2	41	22
2014	2	33	9
2015	2	31	16
2016	2	29	15
2017	2	36	19
2018	2		
合計	18	313	168

(2018年6月6日現在)

(注1)2009年度の開講実績は、2010年度から日本リスクマネージャネットワークが継承した科目を東京の早稲田大学規範科学総合研究所と東京工業大学社会人教育院が開講機関として開講したものである。

(注2)2010、2011年度は早稲田大学規範科学総合研究所と共催で大阪府環境農林水産総合研究所環境情報プラザ研修室にて開講した。

7. 東京・茗荷谷 知の市場

(1) 開講機関

化学工学会 SCE・Net

詳細は <http://www.sce-net.jp/shakaijinkyuiku.html> を参照する。

(2) 開催場所

筑波大学東京キャンパス（東京メトロ茗荷谷駅）

(3) 概要

色々な分野で活動してきた化学技術者が長年の実務経験を通じて蓄積してきた知識と技術を次代へ伝承することを目的とする化学工学会 SCE・Net は、化学技術に関わる教養講座を共催講座として開講してきたが、社会のより幅広い人々に技術や事柄についての基礎知識を提供する目的で、分割受講を可能とするなどの改革を行い、原子力と放射線に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、前期に1科目を開講する。

1) 継続科目として1科目

①化学工学会 SCE・Net

原子力と放射線の基礎から応用までを学ぶ科目（前期）

講師は当該分野で経験を積んだ現役あるいはシニアの化学技術者が当たる。

全講義の70%以上出席した受講者には、化学工学会 SCE・Net が受講修了証を発行するが、分割受講も可能である。

受講料は1科目あたり5,000円で、分割受講の場合は3,000円である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2005	7	111	65
2006	7	90	51
2007	7	122	54
2008	3	106	45
2009	2	58	36
2010	2	53	24
2011	4	117	42

2012	6	152	85
2013	2	51	29
2014	4	50	50
2015	2	31	24
2016	1	23	23
2017	1	21	21
2018	1		
合計	48	985	549

(注) 2013年度以前は共催講座として開講してきた値も含む。

(2018年6月6日現在)

8. 大阪・関西大学梅田キャンパス 知の市場

(1) 開講機関

関西大学

詳細は http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_ss/ を参照する。

(2) 開催場所

関西大学梅田キャンパス(阪急梅田駅前・JR大阪駅)

(3) 概要

安全・安心をデザインできる社会貢献型の人材を育成することを目指す関西大学は、社会安全学に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、前期に1科目を開講する。

1) 新規科目として1科目

①関西大学

安全・安心社会と社会安全学に関する科目(前期)

受講料は1科目あたり社会人が10,000円で学生院生が3,000円である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2014	1	95	95
2015	1	92	92
2016	1	71	71
2017	1	79	79
2018	1		
合計	4	337	337

(2018年6月6日現在)

9. 茨城・つくば 知の市場

(1) 開講機関

農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門

詳細は <http://www.naro.affrc.go.jp/nias/gmo/opencollege/index.html>

を参照する。

(2) 開催場所

つくば市を中心に複数箇所

(3) 概要

農業・食品産業における国内最大の研究開発機関である農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門が、農業生物資源と育種や農作物の品種改良に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、通年で1科目を開講する。

1) 新規科目として1科目

①農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門

農研機構生物機能利用研究部門で行っている研究や身近な科学の話題についてカフェスタイルで気軽に研究者と話しあうことのできる科目(通年)

受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2018	1		
合計	1		

(2018年6月6日現在)

10. 東京・放送大学東京文京学習センター 知の市場

(1) 開講機関

東京知の市場

放送大学(協賛)

詳細は <http://www.chinoichiba.org/lwwchp/>
<http://www.lwwc.ocha.ac.jp/saikyouiku/> を参照する。

(2) 開催場所

放送大学東京文京学習センター(東京メトロ茗荷谷駅)

(3) 概要

学習機関として広く社会人に大学教育の機会を提供する放送大学の協賛を得て東京知の市場が、農薬や化学物質から法学まで幅広い分野の科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、前期に5科目、後期に4科目の合計9科目を開講する。

1) 新規科目として7科目

①原田節雄

標準(Open)と知財(Closed)を巡る経営戦略を論じ、それに必要な交渉術・会議術・闘争術を解説し実演する科目(前期)

②山口登

現地経験に基づいたサウジアラビアと日本の類似点について論じる科目(前期)

③サステナビリティ消費者会議

今後の持続可能な社会で消費者はどのようにあるべきかを考える科目(後期)

④増田優

社会的規範と科学的方法論について事例をもって論じる科目(前期)

⑤増田優

技術革新と社会変革の係わりについて事例をもって論じる科目(前期)

⑥増田優

社会的規範と科学的方法論について事例をもって論じる科目(後期)

⑦増田優

技術革新と社会変革の係わりについて事例をもって論じる(後期)

2) 継続科目として2科目

①放送大学(下条佑一)

楽しく豊かな人生を創造するプロフェッショナルの心得に関する科目(前期)

②林浩次

SDS 作成と GHS 分類の実務を学ぶ科目（後期）

修了者には受講修了書を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2015	1	10	10
2016	4	24	23
2017	5	52	47
2018	9		
合計	10	86	80

(2018年6月6日現在)

II. 専門編

1 2. 愛知・名古屋市立大学（2）学びなおし 知の市場

(1) 開講機関

名古屋市立大学大学院医学研究科

詳細は <http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/> を参照する。

(2) 開催場所

名古屋：名古屋市立大学 川澄キャンパス（名古屋市地下鉄桜山駅前）

(3) 概要

医療保健分野の人材不足を補うため、職場復帰と高度医療に対応できる能力の向上を支援することを目的とする名古屋市立大学学びなおしセンターは、専門分野に応じた柔軟な選択科目から構成する自己研鑽プログラムを開講する。

2017年度は、次の連携機関と協力して、前期に3科目、後期に3科目の合計6科目を開講する。

1) 継続科目として6科目

①名古屋市立大学大学院医学研究科

医療保健に関する6科目（春期）（秋期）

2) 新規科目として1科目

①名古屋市立大学大学院医学研究科

医療保健に関する出張講座1科目（春期）（秋期）

医療と保健分野の国家資格保有者を対象としたコース制（医療専門コース、医療技能コース、健康・保健コース）での受講とスポット科目での受講があり、スポット科目での受講は一部受講制限のある実習科目を除き一般の者も受講可能である。

受講修了した国家資格保有者については、受講修了証を発行するほか、履修証明試験の成績に応じて学校教育法に基づく履修証明書を授与するとともに就職支援もおこなう。一般の受講者については受講修了証を発行する。受講料は1科目あたり5,000円である。

講座受講中は学内「さくら保育所」の一時託児サービス(1回2,000円)も利用できる。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2008	7(6科目は12月開講)	248	194
2009	18	1,008	459
2010	10	990	399
2011	6	257	182
2012	6	272	204
2013	6	261	202
2014	6	241	191
2015	6	252	220
2016	7	258	231
2017	6	228	193
2018	7		
合計	78	4,015	2,480

(2018年6月6日現在)

1 3. 東京・明治大学 知の市場

(1) 開講機関

明治大学リバティアカデミー

詳細は <http://academy.meiji.jp/ccs/index.html> を参照する。

(2) 開催場所

明治大学駿河台校舎リバティタワー (JR 御茶ノ水駅)

(3) 概要

明治大学の生涯教育の拠点である明治大学リバティアカデミーは安全分野に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、前期に1科目、後期に1科目の合計2科目を開講する。

1) 継続科目として2科目

①明治大学 リバティアカデミー

i) 暮らしの中の安全の検証と安全を創るための方策について論じる科目 (前期)

ii) 製品と機械の安全及びリスクアセスメントに関する科目 (後期)

120分授業16回からなる科目を前期に1科目、後期に1科目、計2科目開講する。

修了者には修了証を発行する。受講料は1科目あたり10,000円である。

開催年度	科目・ユニット数	受講者数	修了者数
2005	2ユニット	169	17*
2006	3ユニット	308	186
2007	4ユニット	100	84
2008	4ユニット	119	90
2009	4ユニット	326	199
2010	2科目	144	144
2011	2科目	122	90
2012	2科目	135	112
2013	2科目	124	80
2014	2科目	134	90
2015	2科目	114	78
2016	2科目	57	51
2017	2科目	53	38
2018	2科目		
合計	33	1,905	1,239

* : 1科目は修了証発行せず

(2018年6月6日現在)

Ⅲ. 研修編

1 4. 鳥取・倉吉 知の市場

(1) 開講機関

動物臨床医学研究所

鳥取県動物臨床医学研究所が2011年4月1日から動物臨床医学研究所に改称された。

詳細は <http://www.dourinken.com/> を参照する。

(2) 開催場所

動物臨床医学研究所 (JR 倉吉駅)

(3) 概要

獣医学に関する臨床的研究はもとより、獣医医療の従事者の教育・養成などの人材育成などに長期間にわたって取り組んできた動物臨床医学研究所は、動物医療に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、前期に1科目、後期に1科目の合計2科目を共催講座から移行して開講する。

1) 継続科目として2科目

①動物臨床医学研究所

臨床現場に有用な症例検討のあり方に関する2科目 (前期) (後期)

動物医療の中でも伴侶動物医療の近年の発展は目を見張るものがあるが、急速な発展の中にひずみが発生しているのも事実である。医療には生き物的要素があり急速な変化に対応不能な面もあるため臨床獣医学のありようを再考しつつ、原点であるひとつひとつの症例を大事に検証して、そのありようを検討するために講義内容を毎年全面的に更新している。

受講対象者は獣医師、獣医系大学学生、動物看護師に限る。

受講料は1科目あたり1,000円、学生は500円である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2010	2	146	83
2011	2	135	44
2012	2	135	37
2013	2	156	44
2014	2	142	30
2015	2	135	35
2016	2	126	19
2017	2	343	0
2018	2		
合計	16	1,318	292

(2018年6月6日現在)

1 5. 埼玉・狭山元気プラザ 知の市場

(1) 開講機関

アダムジャパン

詳細は<http://adam-japan.com/>を参照する。

(2) 開催場所

狭山元気プラザ及びアダムジャパン（西武新宿線 狭山市駅からバス）

(3) 概要

ビリヤードの用具の生産において世界を先導するアダムジャパンは、全国に狭山市の特徴を発信する一環として世界において大きな存在感を有するものづくりに関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、後期に1科目を開講する。

1) 継続科目として1科目

①アダムジャパン・狭山市

ものづくりシリーズとしてビリヤードとその道具に関する科目（後期）

受講料は1科目あたり15,000円である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2014	1	10	5
2015	1	9	7
2016	1	9	8
2017	1	7	4
2018	1		
合計	4	35	24

(2018年6月6日現在)

1 6. 福島・いわき 知の市場

(1) 開講機関

東洋システム

詳細は、<http://www.toyo-system.co.jp/index.html>を参照する。

(2) 開催場所

東洋システム研修室（JR常磐線 湯本駅）

(3) 概要

二次電池の試験装置を提供するとともに試験評価を広く実施することにより高性能二次電池の開発や日本の国際競争力の維持向上に資する東洋システムは、リチウムイオン二次電池をはじめとする二次電池が多くの化学物質の集積によって成り立っていることを踏まえた科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、通年で1科目を開講する。

1) 継続科目として1科目

①増田優

イノベーションに関する科目（通年）

受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2013	1	22	22
2014	1	20	20
2015	1	53	53
2016	2	32	32
2017	1	3	3
2018	1		
合計	6	130	130

(2018年6月6日現在)

17. 東京・東京駅 知の市場

(1) 開講機関

東洋システム

詳細は、<http://www.toyo-system.co.jp/index.html> を参照する。

(2) 開催場所

アットビジネスセンター東京駅(JR 東京駅八重洲口・地下鉄八丁堀駅)

(3) 概要

二次電池の試験装置を提供するとともに試験評価を広く実施することにより高性能二次電池の開発や日本の国際競争力の維持向上に資する東洋システムは、リチウムイオン二次電池に関する科目を開講する。

2018年度は、次の連携機関と協力して、前期に1科目を開講する。

1) 新規科目として1科目

①東洋システム

リチウムイオン二次電池開発の歴史に見る技術革新の成否の要因に関する科目(前期)

修了者に受講修了証を発行する。受講料は無料である。

開催年度	科目数	受講者数	修了者数
2014	1	107	23
2015	1	80	17
2016	1	119	23
2017	1	79	12
2018	1		
合計	4	385	75

(2018年6月6日現在)

(注1)2014年度の開講実績は東洋システムが東京・八重洲にて、2015年度の開講実績は東洋システムが愛知・名古屋にて、2016年度の開講実績は東洋システムが同志社大学東京オフィスにて、2017年度開講実績は京都テルサ、TKP 京都四条烏丸カンファレンスセンターにて開講したものである。

IV. 大学・大学院編

大学や大学院での正規の単位取得対象科目として開講される科目やユニットを知の市場の関連講座として位置づける。この展開を新たに始めた第Ⅱ期（展開期：2009～2012年度）は毎年平均して11拠点で30科目を開講した。第Ⅲ期（完成期：2013～2014年度）は平均して10拠点で22科目を開講した。

2018年度は、1拠点で新規科目として4科目を開講する。

拠点名	科目名	種別	学科・連携機関
東京・放送大学 文京学習センター 知の市場	規範科学事例研究 1	科目	放送大学
	社会技術革新学事例研究 1	科目	
	規範科学事例研究 2	科目	
	社会技術革新学事例研究 2	科目	

開講年度	第Ⅱ期			第Ⅲ期			2015			2016			2017			2018		
	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数	開講数	受講者数	修了者数
放送大学	—	—	—	—	—	—	2科目	18	18	4科目	58	54	4科目	22	22	4科目	—	—
大東文化大学	—	—	—	—	—	—	1科目	141	121	1科目	148	124	1科目	106	83	—	—	—
早稲田大学 理工学術院 先進理工学部	5ユニット	669	563	4ユニット	350	325	3ユニット	555	555	3ユニット	279	254	—	—	—	—	—	—
早稲田大学 理工学術院 大学院 3研究科	4科目	63	46	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
早稲田大学 先進理工学研究科 生命医科学専攻	—	—	—	1科目	50	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
早稲田大学 先進理工学研究科 共同先進健康科学専攻	—	—	—	2科目	42	27	2科目	28	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—
早稲田大学大学院・東京農工大学大学院 共同先進健康科学専攻	3科目	15	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
早稲田大学大学院・東京女子医科大学大学院 共同先端生命医科学専攻	3科目	7	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
明治大学大学院 理工学研究科 新領域創造専攻	3科目	35	31	2科目	15 (1科目)	14 (1科目)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
お茶の水女子大学	3科目	140	117	3科目	32	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科	1科目	5	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
お茶の水女子大学 ライフワールド・ウォッチセンター	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3科目	0	0	4科目	30	16	—	—	—
東京工業大学工学部 高分子工学科	1科目	32	30	1科目	36	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学専攻	1科目	22	20	1科目	25	25	1科目	25	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—
筑波大学	—	—	—	2科目	7	7	2科目	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大分大学 教育福祉科学部	—	—	—	2科目	14	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福山大学大学院 工学研究科	2科目	34	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科	1科目	5	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東京大学大学院 教育学研究科	—	—	—	1科目	75	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	30科目	1268	1068	22科目	686	536	11科目	770	748	11科目	485	432	9科目	158	121	4科目	—	—

注：第Ⅱ期の値は2009～2012年度、第Ⅲ期の値は2013～2014年度のうち開講された年数を基に算出した平均値を示す。

(2018年6月6日現在)

知の市場
—実績と計画—
(2017 年度実績と 2018 年度計画版)

1. 理念と運営

「知の市場(FMW : Free Market of・by・for Wisdom)」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために集う場である。そして理念と基本方針を共有しつつ協働する受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、協力者・協力機関、有志学生実行委員会、知の市場事務局などが自立的で解放的な協力関係を形成しながら、それぞれの立場を越えて自律的な判断により自ら活動する場 (Voluntary Open Network Multiversity) である。

「知の市場」は、大きな時代の潮流を先導し、社会人教育と学生や院生に対する学校教育とを切れ目なく連結し、さらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指している。加えて、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支え、そして教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく、そうした真の教育立国を求めている。それによって津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって、道を切り開いていくことが知の市場の課題である。

「知の市場」は、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という 4 つの教育の基本方針の下で活動する。そして開講機関が主催し連携機関の協力を得て知の市場とともに開講する共催講座と、共催講座での経験などを活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって開講機関が「知の市場」の理念を共有しながら独自に開講する関連講座で構成されている。

「知の市場」は、それぞれの機関や個人の自発的な参画と自主的な活動を基本に据えた理念の下、運営の基本方針、諸規定、運営体制などを公開している。そして受講修了証などの諸様式・マニュアルや「知の市場」のロゴマークなどの統一と標準化を進め、共通受講システムを共有しながら参画機関のホームページを相互にリンクすることなどにより協働の基盤を整備し、相互扶助と相互検証を通して連携の強化と教育水準の維持向上を図っている。

「知の市場」は、理念を構築し人の輪を形成し始めた黎明期（～2003 年度）を経て、化学生物総合管理の再教育講座としてお茶の水女子大学を拠点に第 I 期（2004—2008 年度）の活動を開始し、開講機関や連携機関などとの協力関係を拡充しつつ講師や受講者との人の輪を拡大して全国から大きな反響を得た。そして政府や大学からの資金提供などを求めず自主的かつ自発的な教育活動であることを鮮明に掲げた第 II 期（2009—2012 年度）は視野を拡張しながら全国に開講拠点を拡大し、第 III 期（2013—2014 年度）は自立的でかつ自律的な活動として知の市場を確立した。そして第 IV 期（2015 年度—）はこの自立的な教育活動をさらに進化させつつ全国に展開している。

2. 2018年度開講計画

第Ⅰ期、第Ⅱ期に比べて第Ⅲ期の拠点数は増加しており、知の市場の全国展開と多様化が進展している。第Ⅰ期～第Ⅲ期の間には確立した自立的にして自律的な活動の基盤を活かして、2018年度は2016年度、2017年度にかけて行ってきた共催講座から関連講座への移行を完了し、より一層自主自立的な基盤の元、活動を行っていく。2018年度は全体で310名の講師陣の参画により、全国16拠点で42科目を開講する。

表1 開講状況の推移（拠点・科目・講師）

年度		第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	2015	2016	2017	2018
共催 講座	拠点	2(1)	15(4)	16(5)	8(4)	8(3)	6(3)	—
	開講科目	44	44	34	21	18	13	—
	講師	346	401	323	200	128	122	—
関連 講座	拠点	—	14(5)	39(10)	29(13)	20(7)	15(6)	16(10)
	開講科目	—	41	45	51	38	38	42
	講師	—	251	329	380	322	270	310
合計	拠点	2(1)	29(10)	40(15)	35(16)	26(10)	19(9)	16(10)
	開講科目	44	85	80	72	56	51	42(16)
	講師	346	625	652	580	450	392	310

注1：第Ⅰ期の値は2004～2008年度の5年間の平均値、第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の平均値、第Ⅲ期の値は2013～2014年度の2年間の平均値を示す。

注2：括弧内は東京以外の拠点数で内数。

(1) 開講機関と連携機関

第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して第Ⅲ期は順調に増加している。これまでの経験を活かして独立する機関が増加するのに伴い2018年度の開講機関と連携機関の合計は23機関である。

開講機関と連携機関の内訳は、第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期に対して市民の割合が増加し、開講機関と連携機関の多様化が順調に進んでいる。

表2 開講状況の推移（開講機関・連携機関）

年度	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	2015	2016	2017	2018
開講機関・連携機関	26	41	57	49	38	28	23
開講機関	2	30	39	33	36	20	16
連携機関	24	38	44	38	32	26	20

注1：第Ⅰ期の値は2004～2008年度の5年間の平均値、第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の平均値、第Ⅲ期の値は2013～2015年度の3年間の平均値を示す。

注2：開講・連携機関の値は、開講機関と連携機関の値の合計を示すが、両方の役割を担っている機関を1つの機関として計上するため、それぞれの値の単純合計とは合致しない。

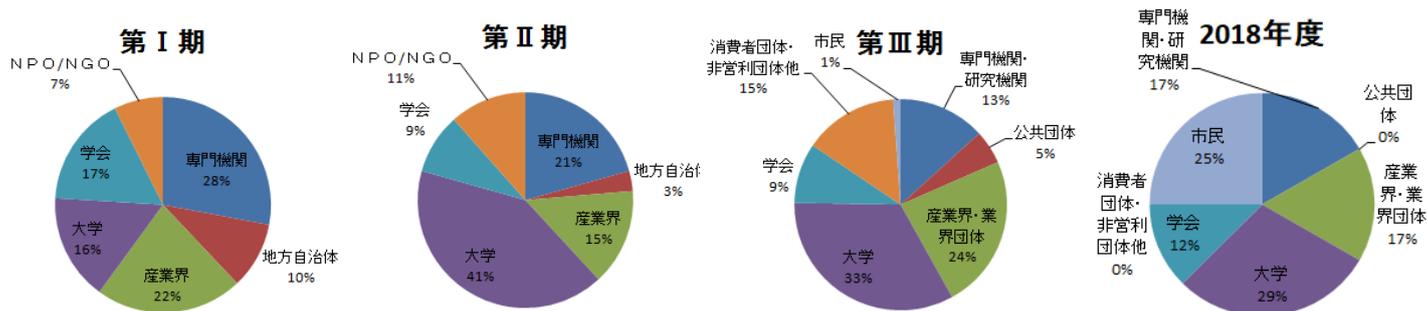


図1 開講機関と連携機関の内訳 (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2018年度)

1) 開講機関

2018年度の開講機関は16機関である。

開講機関の内訳は、第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して現場基点の強化の流れにより産業界・業界団体の割合が大幅に増加した第Ⅲ期と同様の傾向が見られる。

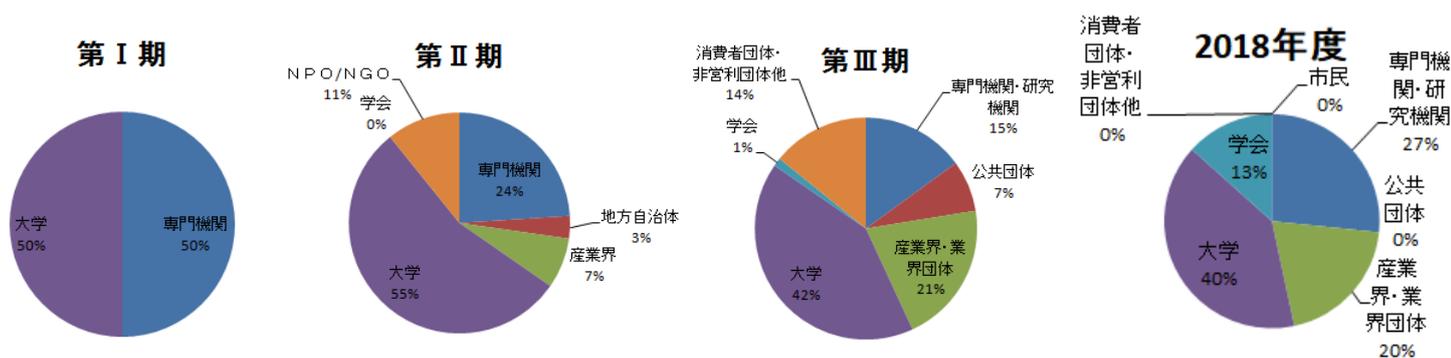


図2 開講機関の内訳 (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2018年度)

2) 連携機関

2018年度の連携機関は20機関である。

連携機関の内訳は、第Ⅰ期、第Ⅱ期に対して分野の多様性が一層進んだ第Ⅲ期と同様の傾向が見られ、その中でも市民の割合の増加が著しい。

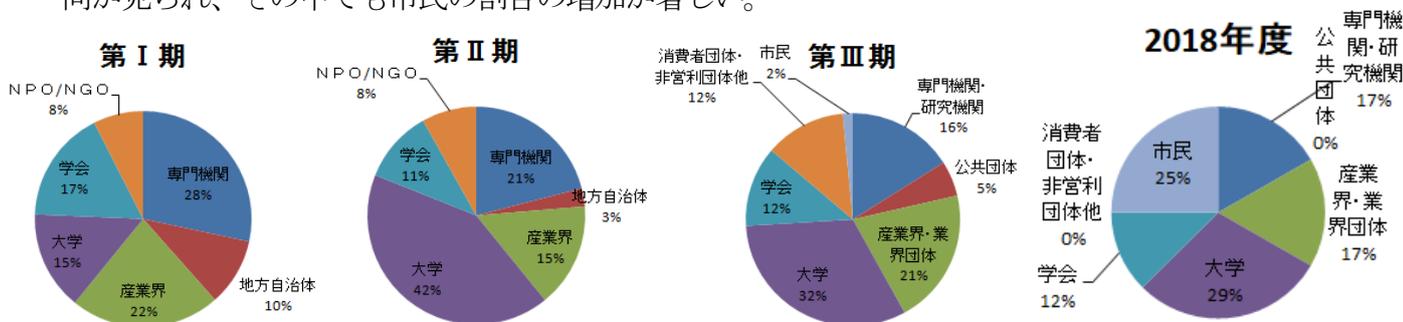


図3 連携機関の内訳 (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2018年度)

(2) 講師

第Ⅰ期に比べて第Ⅱ期は2.5倍に増加したが、第Ⅲ期はさらに増加して2013年度

には 769 名に達した。2014 年度からは 1 科目を多数の講師が担当するオムニバス形式の科目が減少して 1 科目をひとりの講師が担当する科目が大幅に増加したため、第Ⅲ期の平均は第Ⅱ期と同様な水準となった。2018 年度はこの傾向が続き 310 名が参画する。

講師の所属の内訳は、第Ⅰ期に比べて第Ⅱ期では専門機関・研究機関や大学・学協会が増加したが、第Ⅲ期では現場基点の流れの強化により産業界・業界団体が増加して実社会の経験者が大勢を占めた。2018 年度は大学・学会の割合が増加するが、引き続き実社会の経験者が全体の半数を占めている。

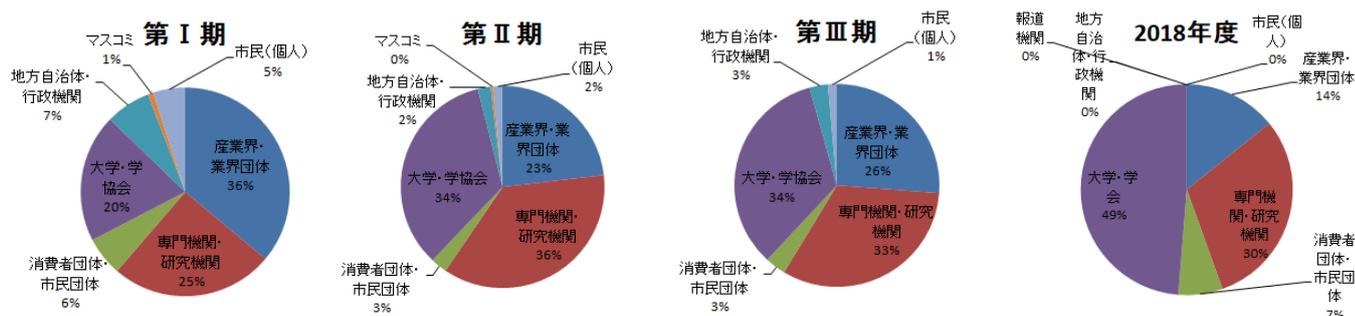


図 4 講師の所属 (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2018 年度)

(3) 開講科目

共催講座と関連講座の科目数の合計は第Ⅰ期に対して第Ⅱ期にほぼ 2 倍に増加した後、第Ⅲ期は第Ⅱ期とほぼ同様な水準である。2016 年度以降は、これまでの経験を活かして独立する機関が増加するのに伴い科目が減少する傾向が続いており、2018 年度は 42 科目に減少する。

2010 年度までが生物総合経営、コミュニケーション、総合 (医療・保健、労働、食・農、鉱工業製品・医薬品、環境)、社会変革と技術革新の 5 つの大分類で構成していたのに対して、2011 年度に地域の 1 分野を、2012 年度に国際、教育・人材育成、芸術・スポーツの 3 分野を追加して 9 つの大分類とした。第Ⅰ期から第Ⅲ期に向かつて多様化が進んだが、2018 年度は分野別総合管理と社会変革と技術革新が増加して大きな割合を占めているが、さらにその内訳をみると領域の多様化が進んでいる。

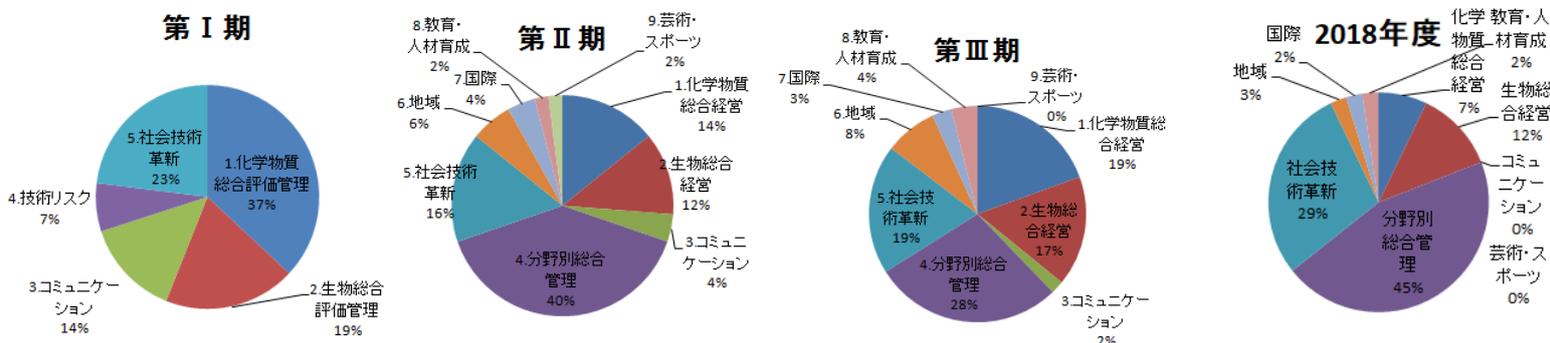


図 5 開講科目の大分類 (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2018 年度)

また、基礎、中級、上級の 3 つの水準に科目を分類して比較すると、第Ⅰ期から第Ⅱ期に移る際に名古屋市立大学の医療に関する上級科目の開講などにより基礎が減少して上級が増加したが、第Ⅱ期から第Ⅲ期に移るにあたっては基礎の割合が増加したが、2018 年度は基礎の割合と共に、中級の割合が増加している。

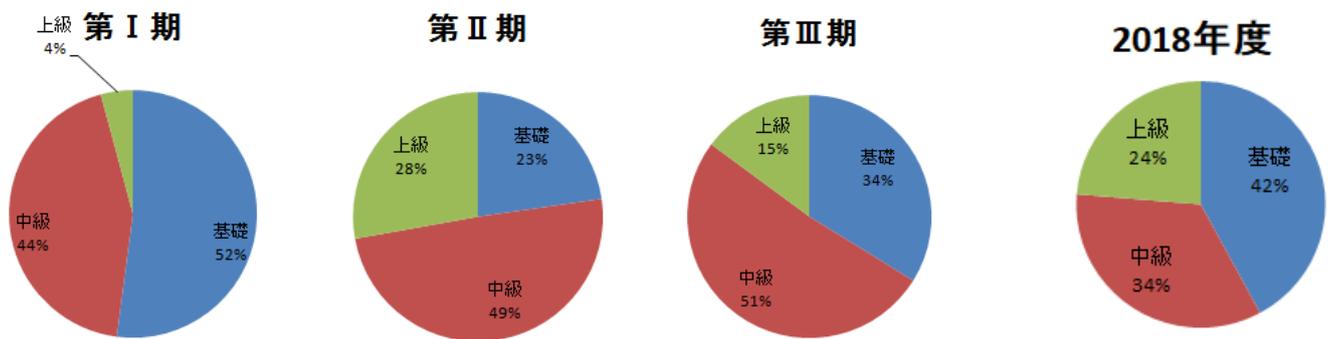


図6 開講科目の水準（第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2018年度）

関連講座は第Ⅰ期には存在せず第Ⅱ期から開講した。教養編、専門編、研修編、大学・大学院編の4つに分類して比較すると、第Ⅱ期に比べて第Ⅲ期は大学・大学院編が減少する一方で、教養編の割合が大幅に増加して多様化が進んだ。2018年度は共催講座から関連講座への科目の移行に伴い、さらに教養編の割合が増加する。

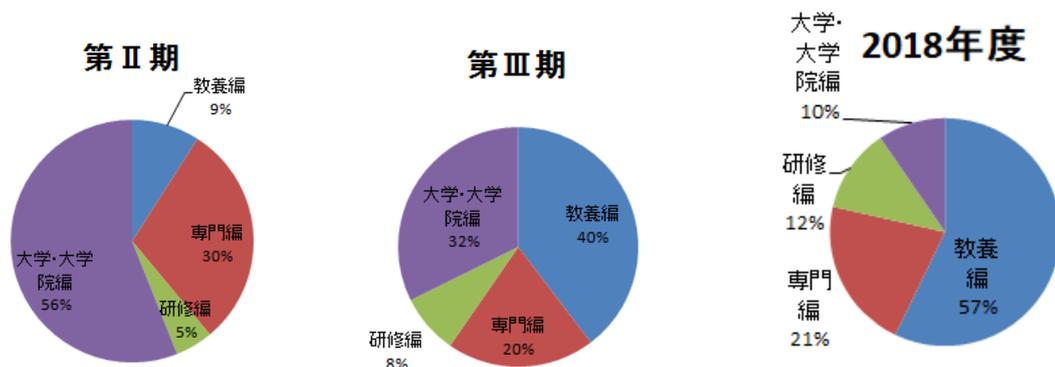


図7 開講科目（関連講座）の分類（第Ⅱ期、第Ⅲ期、2018年度）

(4) 友の会と協力者・協力機関

第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期と進むとともに友の会会員、協力機関ともに増加したが、その後も知の市場に係る情報を共有しつつ講座の受講、開講場所の提供、広報の実施などへの自主的かつ自立的な参画と支援・協力が拡大している。

表3 友の会と協力機関の推移

	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	2015	2016	2017	2018
友の会会員	2857	3333	4874	4936	5302	5337	5580
協力機関	—	60	82	80	80	81	84

注1：第Ⅰ期の値は2004～2008年度の5年間の各年度末の数字の平均値を示す。第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の各年度末の数字の平均値を示す。第Ⅲ期の値は2013～2014年度の2年間の各年度末の数字の平均値を示す。

注2：2015年度、2016年度及び2017年度の数値は当該年度の末日の数字を示す。2018年度の値は2018年6月6日現在の数字を示す。

3. 2017 年度受講実績

(1) 受講状況

第Ⅰ期の受講者に比べて第Ⅱ期は3倍に増加したが、第Ⅱ期の後半は東日本大震災や福島原子力発電所の事故の影響により減少した。第Ⅲ期の受講者は第Ⅱ期の平均と比べて減少したが、東日本大震災や福島原子力発電所の事故の後の第Ⅱ期後半とは同水準であり、第Ⅰ期に対しては2倍強増加している。2017年度は開講拠点や開講機関の集約により開講科目が減少したものの、科目当たりの受講者は第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期と比較して上昇している。

表4 受講状況の推移

		年度あたり平均			2015 年度	2016 年度	2017 年度	合計	
		第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期					
年度 あたり 平均	共催講座	科目数	44	44	40	21	17	11	524
		応募者	1203(27)	1415(32)	964(24)	459(22)	459(27)	262(23)	14784(28)
		受講者	1191(27)	1370(31)	957(24)	454(22)	459(27)	262(23)	14528(28)
		修了者	661(15)	723(16)	443(11)	208(10)	158(9)	114(10)	7581(14)
		修了率	55.5%	52.8%	46.3%	45.8%	34.4%	44.0%	52.1%
	関連講座	科目数	—	41	55	51	39	37	401
		応募者	—	2047(50)	1966(36)	2528(50)	1743(46)	1768(47)	18160(45)
		受講者	—	2032(50)	1916(35)	2492(49)	1695(45)	1722(46)	17868(45)
		修了者	—	1398(34)	1650(30)	2296(45)	1542(41)	1119(30)	12431(31)
		修了率	—	68.8%	86.1%	92.1%	91.0%	65.0%	69.5%
	共催+ 関連	科目数	44	85	95	72	56	48	925
		応募者	1203(27)	3462(39)	2930(31)	2987(41)	2202(40)	2030(42)	32944(36)
		受講者	1191(27)	3407(38)	2873(30)	2946(41)	2154(39)	1984(41)	32396(35)
		修了者	661(15)	2121(25)	2093(22)	2504(35)	1700(31)	1233(25)	20012(22)
		修了率	55.5%	62.3%	72.9%	85.0%	78.9%	62.1%	61.7%
合計	科目数	221	339	189	72	56	48	925	
	応募者	6017(27)	13848(41)	5859(31)	2987(41)	2202(40)	2030(42)	32944(36)	
	受講者	5957(27)	13627(40)	5746(30)	2946(41)	2154(39)	1984(41)	32396(35)	
	修了者	3307(15)	8483(25)	4186(22)	2504(35)	1700(31)	1233(25)	20012(22)	
	修了率	55.5%	62.3%	72.9%	85.0%	78.9%	62.1%	61.7%	

注1: 第Ⅰ期の値は「化学・生物総合管理の再教育講座」として開講した2004～2008年度の5年間の平均値、第Ⅱ期の値は2009～2012年度の4年間の平均値、第Ⅲ期の値は2013～2014年度の2年間の平均値を示す。

注2: 括弧内は科目当りの人数。

(2) 応募者属性

応募者は、現役世代が8割以上を占め男性が女性の2倍に及んでいる。全国展開の進展とともに応募者は地域的に拡大しつつある。また第一次・二次産業に所属する応募者が過半を占めるものの、公務員、研究者、教員、学生・院生なども多く職業は多様である。毎年新規の応募者が過半を占め、上司や教育部門の指示で応募する者も多く増加傾向にある。2017年度は東海地方を拠点とする科目の受講者の割合が大幅に増大し、かつ応募者属性の多様性がより充実した。

1) 年齢別分布

年齢構成は、関連講座が開始した第Ⅱ期では大学・大学院編の学生・院生の受講に伴い 20 歳代の割合が半数を占めていたが、第Ⅲ期以降は年齢構成の多様化、均等化が進んでいる。2017 年度はさらに 20 歳代が減少し、60 歳代以上の割合が増加し、いっそう年齢層の多様化が進んだ。

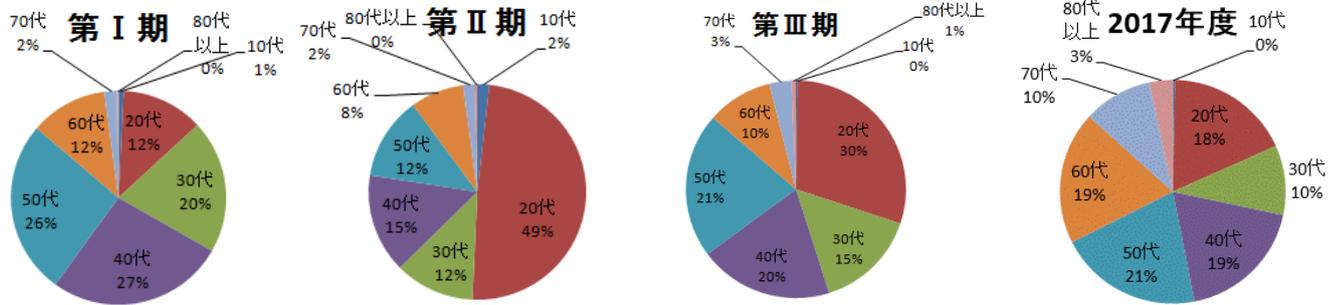


図 8 年齢別応募者 -共催・関連講座- (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2017 年度)

2) 地域別分布

2017 年度の応募者の居住地は、東海圏の割合が大幅に増加した。関東と東海で全体の八割を占めている。

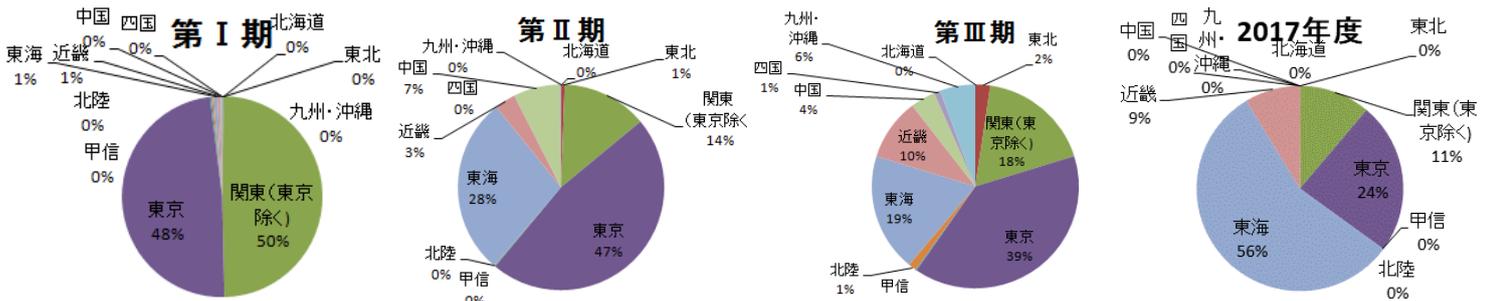


図 9 地域ブロック別応募者 -共催・関連講座- (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2017 年度)

3) 職業別分布

2017 年度の職業別応募者は、学生と製造業従事者が減少する一方、医療・保健分野が大幅に増加し、全体の 2 割を占めた。全体的には、社会の広範な分野の者が参画し、多様な職業分野から関心を得る傾向を、引き続き維持している。

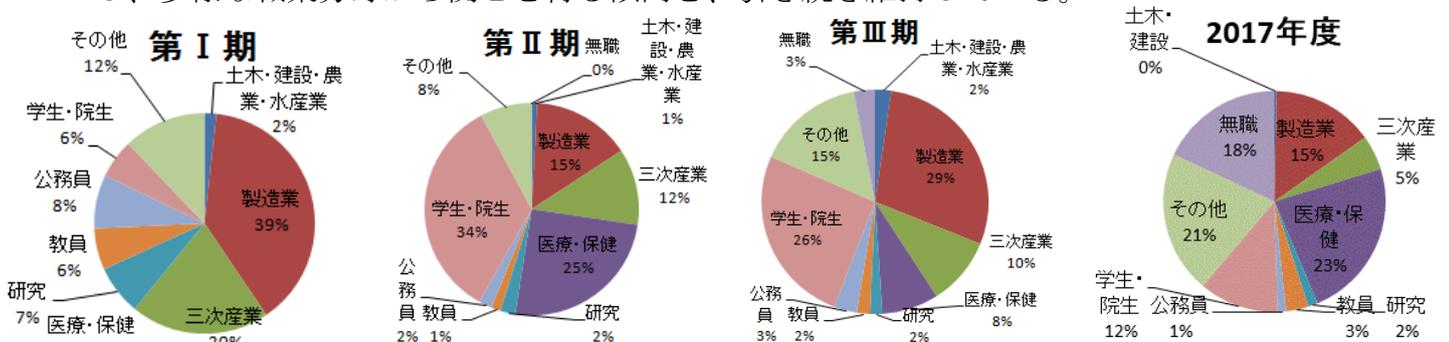


図 10 職業別応募者 -共催・関連講座- (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2017 年度)

4) 男女別分布

男女別分布については共催講座の値を示す。2017年度の応募者の男女比は、男性が7割、女性が3割であり、第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期と同じ傾向が維持されている。男性の比率が圧倒的に大きいこと、そして後述する情報源分布のグラフからみて知の市場が研修コースとして利用される傾向が維持されていることに、知の市場に対する社会の評価が端的に表れており、知の市場は社会に多数存在するいわゆるカルチャーセンターとは全く異なる存在として社会から認知されている。

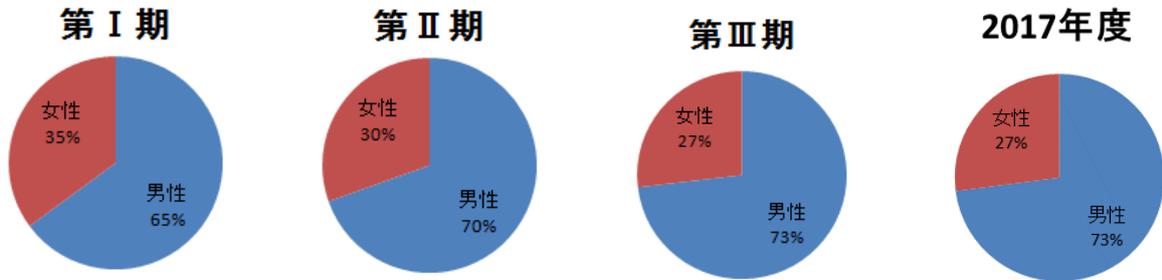


図 11 男女別応募者 -共催講座- (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2017年度)

5) 受講回数分布

受講回数分布については共催講座の値を示す。応募者が過去に何回受講したことがあるかについては、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較して第Ⅲ期はそれまで受講したことのない新規の応募者の割合が増加している。2017年度も新規応募者が過半を占める傾向は維持されている。一方、過去に受講したことのある応募者の割合が全体の3割強を維持しており、知の市場に参画している機関による科目が受講者によって高く評価されていることがわかる。

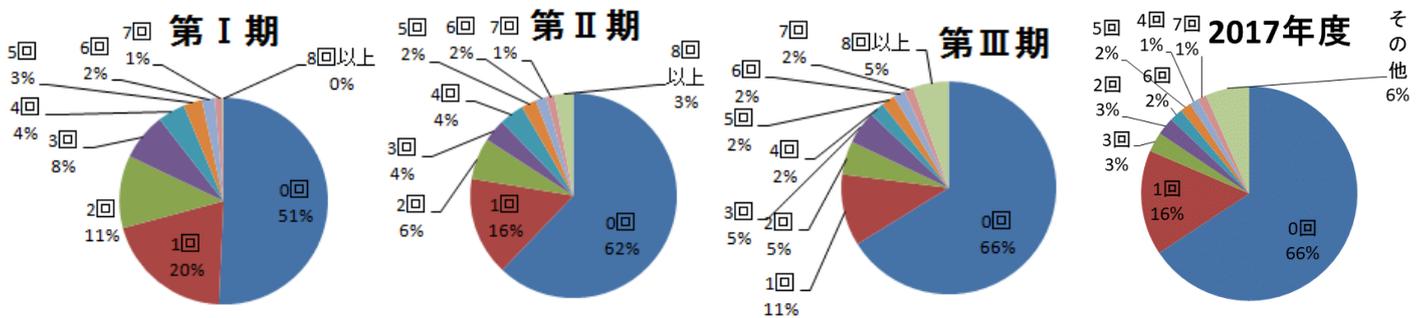


図 12 応募者の過去の受講回数 -共催講座- (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2017年度)

6) 情報源分布

情報源分布については共催講座の値を示す。第Ⅲ期の応募者が講座を知った情報源については、第Ⅰ期、第Ⅱ期と比較してホームページの占める割合が減少する一方で上司或いは教育部門の指示が増加しており、企業や公共団体など諸々の機関において知の市場は高く評価され、実質的に研修コースとして位置づけられている。2017年度も第Ⅲ期の傾向が維持されている。

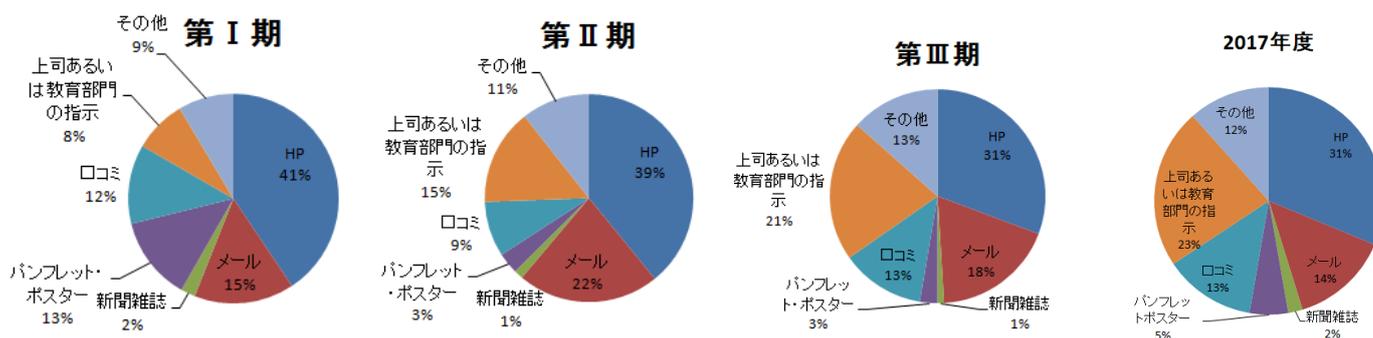


図 13 講座を知った情報源 -共催講座- (第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期、2017年度)

4. 点検評価

(1) 自己点検評価

25 機関の開講機関及び連携機関で協議会を構成し、72 名の構成員が運営主体として知の市場の運営の全般について相互に点検し評価している。

表 5 知の市場協議会構成員の所属内訳及び人数

所属分類	機関数	比率	人数	比率
専門機関・研究機関	4	16%	9	13%
産業界・業界団体	4	16%	11	15%
学校・大学・学会	7	28%	13	18%
消費者団体・非営利団体他	4	16%	10	14%
市民(個人)	6	24%	29	40%
合計	25	100%	72	100%

(2018年6月6日現在)

自己点検評価の一環として、開講科目を客観的に評価して科目の改善や講座運営の合理化などに活用するため科目の終了時点で、講師に対して受講者の態度、意欲、コミュニケーション、理解度、満足度の 5 項目及び講座運営の全般などに関する 7 項目の合計 12 項目のアンケート調査を実施する。

また、講師の自己点検と授業の改善に活用するため 15 回の講義毎に毎回、受講者に対して授業の満足度、理解度、講義レベル、講師の話し方、教材の 5 項目についてアンケート調査を実施する。さらに、開講科目を客観的に評価して科目の改善や講座運営の合理化などに活用するため科目の終了時点で、受講者に対して受講するに至った背景や動機、満足度や理解度、授業の内容や科目の構成など 25 項目についてアンケート調査を実施する。

いずれの調査結果においても、過去の傾向から大きな変化はなく、知の市場は引き続き高い評価を得ている。

1) 講師による評価

講師は受講者の受講態度の良さや受講意欲の高さを評価している。また、受講者と

の意見交換が充分にできるなど講師自身にとっても良い経験の機会になっていると評価している。さらに、講義を行うことは知識の整理になり講師にとっても貴重な自己研鑽の機会であるとの評価が定着しており、企業や専門・研究機関が連携機関として科目を開講することにより自らの組織の人材育成に活かそうとする動きにつながっている。

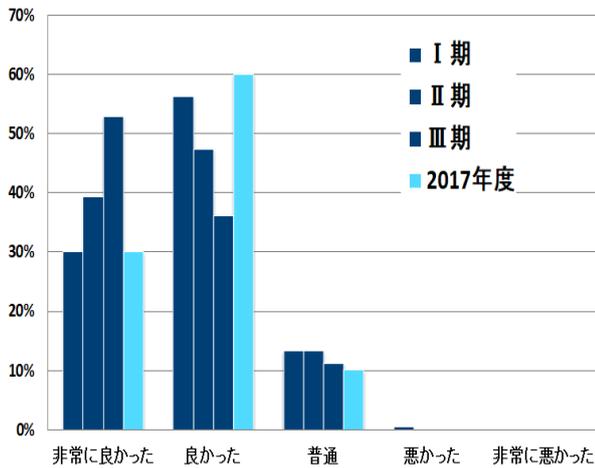


図 14 講師による受講者の受講態度・意欲の評価

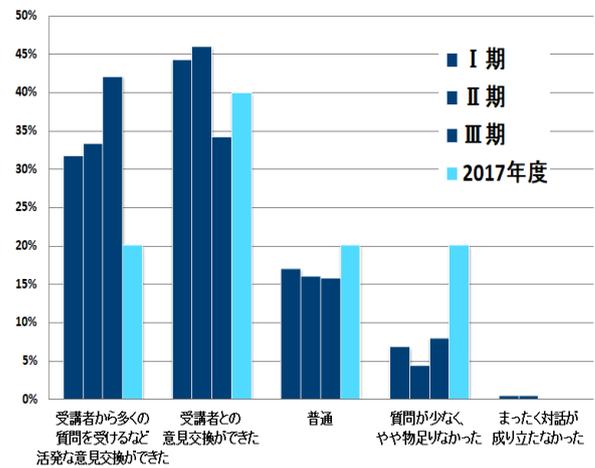


図 15 講師による受講者とのコミュニケーションの評価

2) 受講者による評価

受講者は講義に対して高い満足度を示し、講義に対する理解度も高い。100%近い受講者が次回も受講したい或いは他人にも講座を紹介したいと答えており、知の市場は社会から高い評価を受けている。また、受講者の大多数が職業に係る知識の修得において役立つのみならず自らの教養を高めたり学習の充実感を得る上で有益であると評価しており、現代社会と世界動向を理解するための教養を醸成するという知の市場の目的は社会で広く受け入れられている。

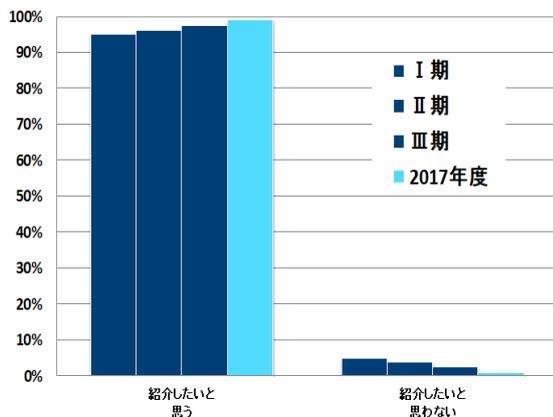


図 16 受講者による他人への紹介

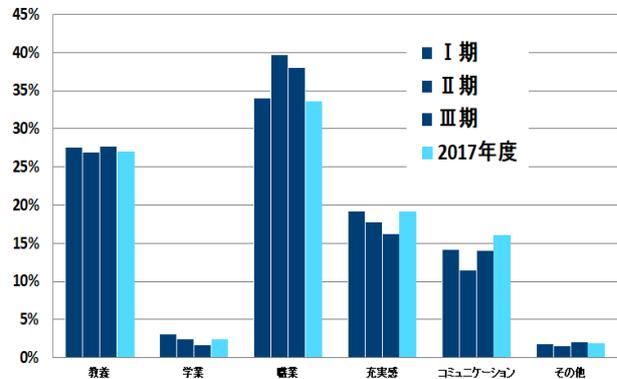


図 17 受講者からみる受講が役立った点

(2) 評価委員会による外部評価

外部有職者などによって構成する評価委員会を設置し、自己点検評価の結果を検証し、講座の運営、科目の構成などについて不断に評価し改善に努めている。2018年度は83名により評価委員会を構成する。2018年度知の市場評価委員会構成員を別表に示す。

表6 知の市場評価委員会構成員の所属内訳及び人数

所属分類	人数	比率
専門機関・研究機関	10	12%
公共団体	3	4%
産業界・業界団体	16	19%
大学・学会	24	29%
消費者団体・非営利団体他	2	2%
報道機関	3	4%
市民（個人）	25	30%
合計	83	100%

(2018年6月6日現在)

(3) 年次大会の開催

2009年度以降、社会の現場を担う者が自己研鑽に励みつつ人材育成や教育に参画している姿を社会に広く提示すること、社会の多彩な意見を吸収する機会を確保し幅広い人々の検証を受けること、密接なコミュニケーションにより認識の共有化を図る場を提供することなどを通して知の市場の発展に資することを目的として、知の市場の運営に携わる関係者が当該年度の活動の実績や次年度の計画などを広く社会に対して報告し公開する年次大会を開催している。

これまで延べ478名の参画のもと、文部科学省文部科学審議官 板東久美子氏、放送大学理事長・日本オープンオンライン教育推進協議会理事長（前早稲田大学総長）白井克彦氏、文部科学省大臣官房国際課国際戦略企画室長 井上睦子氏、国立感染症研究所所長 渡邊治雄氏の4名の特別講演や15個人と9機関の奨励賞受賞記念講演を行うとともに延べ103機関が開講の実績や計画などについて報告を行った。また、2017年度は知の市場の連携学会である化学生物総合管理学会と社会技術革新学会が共催する春季討論集会と合同で第9回年次大会を開催した。

2018年度もこれまでの実績を踏まえて今後の課題を論じるため、引き続き第10回年次大会を開催する。

(4) 奨励賞の授与

知の市場における自己研鑽とその成果を活用する活動及び人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に資する活動を奨励することを目的として、2010年度から奨励賞を授与している。自薦・他薦及び開講や受講の実績調査などに基づき知の市場協議会における審議と知の市場評価委員会における確認を経て選考する。

2018年度は、講師として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した者として1名に奨励賞を授与する。これによって奨励賞の授賞者は19個人と10機関の合計29件に達する。

その内訳は、知の市場で受講し自己研鑽に励みかつその成果を社会に活用した者として河端茂氏と長谷川秀夫氏の2名、開講機関や連携機関として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した機関として国立感染症研究所、化学工学会SCE・Net、主婦連合会、農業生物資源研究所、日本獣医師会、製品評価技術基盤機構、名古屋市立大学、動物臨床医学研究所、日本リスクマネージャネットワークの9機関、講師として人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に係る活動に参画した者として津田洋幸氏、武田繁夫氏、須藤繁氏、星川欣孝氏、長田敏氏、山崎徹氏、安部八洲男氏、尾崎圭介氏、下條佑一氏、保利一氏、堀中新一氏、花井莊輔氏、服部道夫氏、上路雅子氏、永山敏廣氏、栗原博文氏、竹林禎浩氏、の17名、受講者を多く輩出し人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に貢献した機関としてお茶の水女子大学の1機関に奨励賞を授与する。

表7 奨励賞授与の実績

年度	受講者		講師	参画・協力機関	
	個人	機関		開講／連携機関	連携機関のみ
2010	1	—	0	3	0
2011	0	—	3	2	1
2012	0	—	5	1	0
2013	0	1	2	0	0
2014	0	0	1	0	0
2015	0	0	3	2	0
2016	1	0	1	0	0
2017	0	0	1	0	0
2018	0	0	1	0	0
合計	2	1	17	8	1

(2018年6月6日現在)

5. 今後の課題

「知の市場」は今後も恒常的に教育内容の向上に努める。また、連携機関の拡充を図って開講分野を拡大し、現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会を提供する。2016年度は新たに北海道が開講拠点に加わった。これを機に、さらに開講機関の拡充を図って開講拠点の全国展開をさらに進め、自己研鑽の機会の日常化と普遍化を推進していく。

また、第Ⅰ期～第Ⅲ期の実績を踏まえつつ構築してきた基盤を生かして社会を構成する多彩な者が自主的に参画する活動として知の市場がさらに自立的にして自律的に進化していくことを目指す。そのため、知の市場の活動に対する共通認識を深化しつつ連携と共働を強化する。

【知の市場評価委員会構成員一覧】

委員名 (敬称略)	所属	肩書	分類
相澤益男	科学技術振興機構	顧問 (東京工業大学元学長・元総合科学技術会議議員)	大学
浅井 清文	名古屋市立大学 医学研究科分子神経生物学分野	教授	大学
朝隈純俊	住友ベークライト	取締役常務執行役員	産業界
阿尻雅文	東北大学 未来科学技術共同研究センター	教授	大学
阿南忠明			市民
安部誠治	関西大学社会安全学部	教授 (元学部長)	大学
阿部博之	科学技術振興機構	顧問 (東北大学元総長・元総合科学技術会議議員)	大学
栗谷しのぶ		弁護士	市民
磯知香子			市民
井上睦子	文部科学省	高等教育局私学部参事官(学校法人担当)	公共団体
今給黎佳菜			市民
内ヶ崎功	日立化成	元社長・元会長	産業界
榎尚史			市民
及川信一			市民
大川秀郎	中国農業科学院油糧作物研究所	特聘教授 (神戸大学名誉教授)	大学
大川原正明	大川原化工機	社長	産業界
大久保明子			市民
奥田有香			市民
刑部南月子		教員	市民
梶山千里	福岡女子大学 (元九州大学)	理事長兼学長(元九州大学総長)	大学
数瀬明美	日本リスクマネージャネットワーク		非営利団体
軽部征夫	東京工科大学	学長 (東京大学名誉教授)	大学
河端茂	YKK AP	商品品質管理部	産業界
神田尚俊	東京農工大学	名誉教授(元副学長 理事)	大学
菊田安至	福山大学 社会連携研究推進センター	教授	大学
菊池久	製品評価技術基盤機構	元理事	市民
岸輝雄	物質・材料研究機構	顧問	専門機関
岸田春美			市民
岸田文雄			市民
金 得永	東京韓国学校	学長	大学
倉内憲孝	住友電工	名誉顧問 (元会長・社長)	産業界
倉根 一郎	国立感染症研究所	元所長	専門機関
栗原 脩			市民
栗原博文	狭山商工会議所	元産業労働センター所長	市民
桑原洋	日立製作所	元副会長	産業界
倉田毅	国際医療福祉大学	教授 (元国立感染症研究所長)	専門機関
小出重幸	読売新聞	元編集委員	報道機関
小宮山宏	三菱総合研究所 (元東京大学)	理事長 (元東京大学総長)	大学
佐野真理子	主婦連合会		消費者団体
白井克彦	早稲田大学・放送大学学術	元総長・元理事長	大学
白井淳資	東京農工大学農学部獣医学科	教授	大学
白水忠隆	生協総合研究所	研究員	専門機関
須藤繁	帝京平成大学	教授	大学
高橋俊彦	J S R	元環境安全部	産業界
高安礼士	福岡市科学館	プロジェクトアドバイザー	市民
竹山春子	早稲田大学大学院 早稲田大学先進理工学研究所	教授	大学
田村留	プロメテ国際特許事務所	弁理士	専門機関
津田喬子	名古屋市立東部医療センター	名誉院長	大学
津田洋幸	名古屋市立大学	特任教授	大学
常盤豊	文部科学省	元大臣官房審議官	公共団体
都甲由紀子	大分大学	教授	大学
中島幹	綜研化学	相談役 (元会長・社長)	産業界
長田敏	製品評価技術基盤機構		専門機関
永田裕子	みずほ情報総研	コンサルティング業務部次長	専門機関
長野庵士	西村あさひ法律事務所	弁護士	専門機関
中村幸一			市民
西野仁雄	名古屋市立大学	元学長	大学
野中哲昌	ダイセル	大阪本社 品質監査室長 兼 レスポンシブル・ケア室長補佐	産業界
橋都なほみ	じほう		報道機関
畑和秀	武田薬品工業		産業界
馬場政二	放送大学		市民
板東久美子	消費者庁	元長官	公共団体
樋口敬一			市民
日高賢治	日高東亜国際特許事務所	弁理士	専門機関
福島麻子			市民
福永忠恒			市民
星川欣孝	ケミカルリスク研究所		産業界
細田覚	元住友化学		産業界
保利一	産業医科大学	産業保健学部長	大学
前田浩平	三洋化成工業	元執行役員	産業界
増田和子	増田賽和堂	表具師	市民
三浦千明			市民
溝口忠一			市民
向殿政男	明治大学	校友会会長、名誉教授	大学
村田康博	YKK		産業界
守谷恒夫	住友ベークライト	元会長・社長	市民
保田浩志	広島大学原爆放射線医学研究所	教授	大学
山崎徹	化学工学会SCE・Net		産業界
山下俊一	長崎大学大学院医薬学総合研究科	教授	大学
山本佳世子	日刊工業新聞社	論説委員兼編集委員	報道機関
結城命夫			市民
吉田淑則	JSR	元会長・社長	産業界
渡邊治雄	国立感染症研究所	元所長	専門機関

2018年6月6日現在 合計83名

注:評価委員は個人の資格で評価委員会に参画し、個人としての見識に基づいて意見を述べる。

【体系と機能】

Free Market of · by · for Wisdom		Voluntary Open Network Multiversity				
知の市場 「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して 人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場						
友の会	連携学会	協力者・協力機関	有志学生実行委員会	知の市場事務局	協議会	評価委員会
I 教養編	愛知・名古屋市立大学(1)最新医学	名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ		名古屋市立大学澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅)	3期制、計3ユニット開講	
	北アルプス・蝶ヶ岳	名古屋市立大学大学蝶ヶ岳ボランティア診療班		名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所	夏季、計1科目開講	
	東京・戸山	国立感染症研究所		国立感染症研究所(東京メトロ早稲田駅、若松河田駅)	前期1科目、後期1科目、計2科目開講	
	東京・幡ヶ谷	製品評価技術基盤機構		製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅)	前期2科目、後期1科目、計3科目開講	
	大阪・住之江	製品評価技術基盤機構		製品評価技術基盤機構製品安全センター	前期1科目、計1科目開講	
	大阪・千里山	日本リスクマネージャネットワーク 関西大学化学生命工学部		関西大学千里山キャンパス(阪急千里線関大前駅)	後期2科目、計2科目開講	
	東京・茗荷谷	化学工学会SCB・Net		筑波大学東京キャンパス(東京メトロ茗荷谷駅)	前期1科目、計1科目開講	
	大阪・関西大学梅田キャンパス	関西大学		関西大学梅田キャンパス(阪急梅田駅・JR大阪駅)	前期1科目、計1科目開講	
	茨城・つくば	農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門		つくば市を中心に複数箇所	通年1科目、計1科目開講	
	東京・放送大学文京学習センター	東京知の市場		放送大学文京学習センター(東京メトロ茗荷谷駅)	前期5科目、後期4科目、計9科目開講	
II 専門編	愛知・名古屋市立大学(2)学びなおし	名古屋市立大学大学院医学研究科		名古屋市立大学澄キャンパス(名古屋市地下鉄桜山駅)	2期制:各期3科目、通年1科目、計7科目開講	
	東京・明治大学	明治大学リパティアカデミー		明治大学駿河台校舎リパティアタワー(JR御茶ノ水駅)	前期1科目、後期1科目、計2科目開講	
III 研修編	鳥取・倉吉	動物臨床医学研究所		動物臨床医学研究所又は伯耆しあわせの郷(JR倉吉駅)	前期1科目、後期1科目、計2科目開講	
	埼玉・狭山元気プラザ	アダムジャパン		狭山元気プラザ、アダムジャパン(西武新宿線狭山市駅からバス)	後期1科目、計1科目開講	
	福島・いわき	東洋システム		東洋システム(JR湯本駅)	通年1科目、計1科目開講	
	東京・東京駅	東洋システム		アットビジネスセンター東京駅(JR東京駅八重洲口・地下鉄八丁堀駅)	前期1科目、計1科目開講	
IV 大学・大学院編						

2018年度 前期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
愛知・名古屋市立大学（1）最新医学 知の市場 開講機関：名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
41	最新医学講座オープンカレッジ 第1期講座・第2期講座	名古屋市立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
北アルプス・蝶ヶ岳 知の市場 開講機関：名古屋市立大学大学蝶ヶ岳ボランティア診療班 会場：名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療所					
41	雲上セミナー	新 名古屋市立大学大学蝶ヶ岳ボランティア診療班		夏季	
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所(地下鉄早稲田駅・若松河田駅)					
PT211c	感染症総合管理1c	国立感染症研究所	感染症との闘いー現在問題となっている感染症ー	火	18:30-20:30
東京・幡ヶ谷 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構 会場：製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅)					
SE125	化学物質総合管理特論	製品評価技術基盤機構	化学物質に関するリスク評価とリスク管理の基礎知識(仮)	火	18:30-20:30
SE232	バイオ安全特論	製品評価技術基盤機構	微生物資源の活用とバイオ安全の基礎知識(仮)	木	18:30-20:30
大阪・住之江 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構 会場：製品評価技術基盤機構製品安全センター					
SK441	製品総合管理特論	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識(仮)	金	18:00-20:00
東京・茗荷谷 知の市場 開講機関：化学工学会SCE・Net 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
VT465b	原子力・放射線基礎論	化学工学会SCE・Net	原子力と放射線の今、そしてこれから	土集中	13:00-17:10
大阪・関西大学梅田キャンパス 知の市場 開講機関：関西大学 会場：関西大学梅田キャンパス(阪急梅田駅・JR大阪駅)					
LK473	社会安全学2	新 関西大学	企業・組織の安全・安心対策	木	18:15-19:45
茨城・つくば 知の市場 開講機関：農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門					
43	農研NIASサイエンスカフェ	新 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門		通年	
東京・放送大学東京学習センター 知の市場 開講機関：東京知の市場・放送大学(協賛) 会場：放送大学東京学習センター(地下鉄茗荷谷駅)					
UT812	プロフェッショナル論	放送大学	楽しく豊かな人生を創造するプロフェッショナルの心得	日集中	14:10-17:15
UT563	オープンとクローズドの経営戦略論	新 原田節雄	標準(Open)と知財(Closed)を巡る経営戦略を論じ、それに必要な交渉術・会議術・闘争術を解説し表演する	水集中	14:10-17:15
UT726	サウジアラビア学入門	新 山口登	現地経験が語る意外に似ているサウジアラビアの人々と社会	水集中	14:10-17:15
57	規範科学事例研究1	新 増田優		水集中	14:10-17:15
51	社会技術革新事例研究1	新 増田優		水集中	14:10-17:15
愛知・名古屋市立大学（2）学びなおし 知の市場 開講機関：名古屋市立大学大学院医学研究科 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
41	名市大医療・保健学びなおし講座 春季講座 3科目	名古屋市立大学大学院医学研究科		火-木	18:30-20:00
41	出張講座 1科目	新 名古屋市立大学大学院医学研究科		通年	
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リハビリアカデミー 会場：明治大学リハビリタワー(JR・地下鉄御茶ノ水駅)					
IT443a	安全学入門	明治大学リハビリアカデミー	安全を総合的に、包括的に考える	土集中	13:00-16:10
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
ZY222	動物臨床医学事例研究	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方1	日	9:30-16:50
福島・いわき 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：東洋システム(JR湯本駅)					
BF518	イノベーション論	増田優		通期	
東京・東京駅 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：アットビジネスセンター東京駅(JR東京駅八重洲口・地下鉄八丁堀駅)					
BT519	リチウムイオン二次電池論	東洋システム	リチウムイオン二次電池開発の歴史に見る技術革新の成否の要因	金	18:00-20:00

知の市場ホームページ <http://www.chinoichiba.org/>に、シラバス(講義内容)を掲載していますが、最新版のシラバスは各開講機関ホームページから確認してください。

◆問合せ◆ 各開講機関までお問い合わせください。問合せ先は、本リーフレットリンク先もしくは知の市場ホームページからご確認ください。

2018年度 後期

公開講座「知の市場」の機関別開講科目一覧

No.	科目名	連携機関	副題	曜日	時間
愛知・名古屋市立大学（1）健康 知の市場 開講機関：名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
41	最新医学講座オープンカレッジ 第3期講座	名古屋市立大学大学院医学研究科		金	18:30-20:00
東京・戸山 知の市場 開講機関：国立感染症研究所 会場：国立感染症研究所(地下鉄早稲田駅・若松河田駅)					
PT211d	感染症総合管理1d	国立感染症研究所	感染症対策-ワクチンを中心に-	火	18:30-20:30
東京・幡ヶ谷 知の市場 開講機関：製品評価技術基盤機構 会場：製品評価技術基盤機構(京王新線幡ヶ谷駅)					
ST441	製品総合管理特論	製品評価技術基盤機構	製品安全対策の基礎知識(仮)	火	18:30-20:30
大阪・千里山 知の市場 開講機関：日本リスクマネージャーネットワーク・関西大学化学生命工学部 会場：関西大学千里山キャンパス(阪急千里線関大前駅)					
JK131b	防疫業総合管理	日本環境動物昆虫学会	身近な生活-環境害虫防除-世界をリードする防疫業と害虫防除技術-	月	18:15-20:15
JK454	環境基礎論	日本リスクマネージャーネットワーク	市民の環境問題入門	火	18:15-20:15
茨城・つくば 知の市場 開講機関：農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門					
43	農研NIASサイエンスカフェ	新 農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門		通年	
東京・放送大学東京学習センター 知の市場 開講機関：東京知の市場-放送大学(協賛) 会場：放送大学東京学習センター(地下鉄茗荷谷駅)					
UT116a	実践化学物質総合管理(演習)2	林浩次	SDS作成とGHS分類の実務を学ぶ	水集中	14:10-17:15
UT543b	サステナブル消費論b	新 サステナビリティ消費者会議	消費者の行動をサステナブルにするためにはどうすべきかをともに考える	水集中	14:10-17:15
57	規範科学事例研究2	新 増田優		水集中	14:10-17:15
51	社会技術革新事例研究2	新 増田優		水集中	14:10-17:15
愛知・名古屋市立大学（2）学びなおし 知の市場 開講機関：名古屋市立大学大学院医学研究科 会場：名古屋市立大学川澄キャンパス(地下鉄桜山駅前)					
41	名市大医療・保健学びなおし講座 秋季講座3科目	名古屋市立大学大学院医学研究科		火-木	18:30-20:00
41	出張講座 1科目	新 名古屋市立大学大学院医学研究科		通年	
東京・明治大学 知の市場 開講機関：明治大学リハピアアカデミー 会場：明治大学リハピアタワー(JR-地下鉄御茶ノ水駅)					
IT443b	製品機械安全特論	明治大学リハピアアカデミー	製品と機械のリスクアセスメントについて考える	土集中	13:00-16:10
鳥取・倉吉 知の市場 開講機関：動物臨床医学研究所 会場：お茶の水女子大学(地下鉄茗荷谷駅・護国寺駅)					
ZY222	動物臨床医学事例研究	動物臨床医学研究所	臨床現場に有用な症例検討のあり方1	日集中	9:30-16:50
埼玉・狭山元氣プラザ 知の市場 開講機関：アダムジャパン 会場：狭山元氣プラザ又はアダムジャパン(西武新宿線狭山市駅からバス)					
YB612a	狭山を学ぶ ものづくり編a	アダムジャパン/狭山市(元氣大学)	世界に羽ばたくピリヤードのすべて	水	16:30-18:30
福島・いわき 知の市場 開講機関：東洋システム 会場：東洋システム(JR湯本駅)					
BF518	イノベーション論	増田優		通期	

知の市場ホームページ <http://www.chinoichiba.org/>に、シラバス(講義内容)を掲載していますが、最新版のシラバスは各開講機関ホームページから確認してください。

◆問合せ◆ 各開講機関までお問合わせください。問合せ先は、本リーフレットリンク先もしくは知の市場ホームページからご確認ください。